

白河街区跡・吉田上大路町遺跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告
二〇一六―一二

白河街区跡・吉田上大路町遺跡

2017年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人
京都市埋蔵文化財研究所

白河街区跡・吉田上大路町遺跡

2017年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、建物建設工事に伴う白河街区跡・吉田上大路町遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

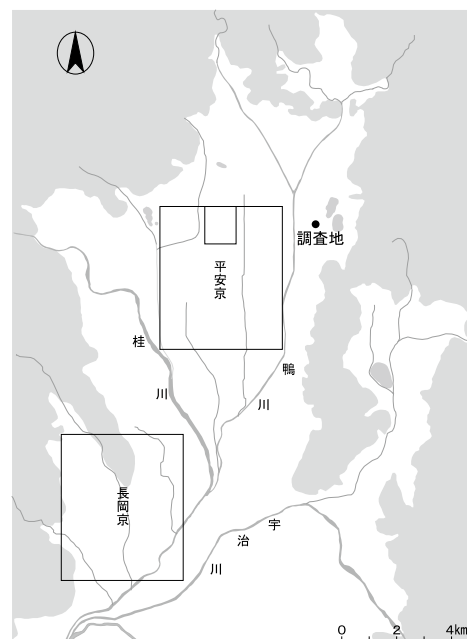
平成29年3月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 白河街区跡・吉田上大路町遺跡（文化財保護課番号 15 S 709）
- 2 調査所在地 京都市左京区吉田近衛町26-54
- 3 委 託 者 株式会社NTTファシリティーズ 業務取締役 関西事業本部長 中村公雄
- 4 調査期間 2016年10月6日～2016年12月12日
- 5 調査面積 287.5㎡
- 6 調査担当者 中谷正和・木下保明
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「御所」・「吉田」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。整理段階で確認した遺構などは500番台から新たに番号を付した。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 中谷正和
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。
- 15 協力者 調査にあたっては、下記の方からご教示をいただいた。記して謝意を表します。
伊藤淳史、阪口英毅、竹本 晃、
富井 眞、丸山真史
（敬称略 50音順）

（調査地点図）



目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 調査地の環境	3
(2) 既往の調査	4
3. 遺 構	6
(1) 基本層序	6
(2) 遺構の概要	6
(3) 第1面（室町時代）の遺構	6
(4) 第2面（鎌倉時代から室町時代）の遺構	11
(5) 第3面（鎌倉時代）の遺構	13
4. 遺 物	18
(1) 遺物の概要	18
(2) 土器類	18
(3) 瓦類	24
(4) 土製品	24
(5) 石製品	25
(6) 金属製品	25
(7) 動植物遺体	26
5. ま と め	30
(1) 遺構の変遷	30
(2) 土坑群の性格について	32

図 版 目 次

図版1	遺構	1	第1面全景（北から）
		2	SA513（北から）
		3	SA513 Pit66（西から）
		4	SA513 Pit41（西から）

- 図版 2 遺構 1 第 2 面全景 (北から)
 2 SD189 (北から)
 3 SK87 (西から)
- 図版 3 遺構 1 第 3 面全景 (北から)
 2 SK22 A 面土器出土状況 (東から)
 3 SK22 B 面土器出土状況 (東から)
- 図版 4 遺構 1 SK265 土器出土状況 (東から)
 2 SK341 甕出土状況 (北から)
 3 SK289 A 面土器出土状況 (東から)
 4 SK286 半裁状況 (東から)
- 図版 5 遺物 出土土器 1
- 図版 6 遺物 出土土器 2
- 図版 7 遺物 石製品・鉄製品・銭貨

挿 図 目 次

図 1	調査位置図 (1 : 2,500)	1
図 2	調査区配置図 (1 : 500)	2
図 3	調査前全景 (北から)	2
図 4	調査風景 (北から)	2
図 5	周辺の調査位置図 (1 : 5,000)	4
図 6	調査区北壁断面図 (1 : 60)	7
図 7	第 1 面遺構平面図 (1 : 100)	8
図 8	SA511 ~ 513 実測図 (1 : 50)	9
図 9	第 2 面遺構平面図 (1 : 100)	10
図 10	SA514・515 実測図 (1 : 50)	11
図 11	SK87 実測図 (1 : 50)	12
図 12	SK311 実測図 (1 : 20)	12
図 13	第 3 面遺構平面図 (1 : 100)	14
図 14	SA516 実測図 (1 : 50)	15
図 15	SB517 実測図 (1 : 50)	15
図 16	SK22 実測図 (1 : 30)	16
図 17	SK265・286・289・341 実測図 (1 : 30)	17

図18	出土土器実測図1 (1 : 4)	18
図19	出土土器実測図2 (1 : 4)	19
図20	出土土器実測図3 (1 : 4)	20
図21	出土土器実測図4 (1 : 4)	22
図22	出土土器実測図5 (1 : 4)	23
図23	出土瓦拓影及び実測図 (1 : 4)	24
図24	出土土製品実測図 (1 : 2)	24
図25	出土石製品実測図 (1 : 4、147のみ1 : 2)	25
図26	出土金属製品実測図、銭貨拓影 (1 : 2)	26
図27	飾金具 (155) X線写真	26
図28	SK289 - 4層出土骨	27
図29	SK289 - 8層出土骨	27
図30	SK289出土同定骨 (タイ・ハモ属・カマス)	28
図31	主要遺構変遷図 (1 : 200)	31

表 目 次

表1	遺構概要表	6
表2	遺物概要表	18
表3	SK289出土動物遺体一覧表	28
表4	SK289出土植物遺体一覧表	28

付 表 目 次

附表1	掲載土器類一覧表	34
附表2	掲載瓦・土製品一覧表	37
附表3	掲載石製品一覧表	37
附表4	掲載金属製品一覧表	37

白河街区跡・吉田上大路町遺跡

1. 調査経過

(1) 調査に至る経緯 (図1)

調査地は、京都市左京区吉田近衛町26-54に位置する。『京都市遺跡地図台帳』によると白河街区跡および吉田上大路町遺跡にあたる¹⁾。ここに計画されたNTT京都吉田別館(事務棟)建設に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課(以下「文化財保護課」という)が試掘調査を実施した。その結果、中世の遺構が良好に遺存することを確認したため、発掘調査の指導が株式会社NTTファシリティーズになされた。調査は株式会社NTTファシリティーズから委託を受けた、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が実施した。

(2) 調査経過 (図2~4)

調査は、文化財保護課の指導により、敷地の南東側に287.5㎡の調査区を設定した。2016年10月6日より安全柵やプレハブ設置などの準備工を実施した。11日から重機により現代から近世の土層の除去から開始した。調査では鎌倉時代から室町時代にかけての柱穴・土坑・溝などの遺構群

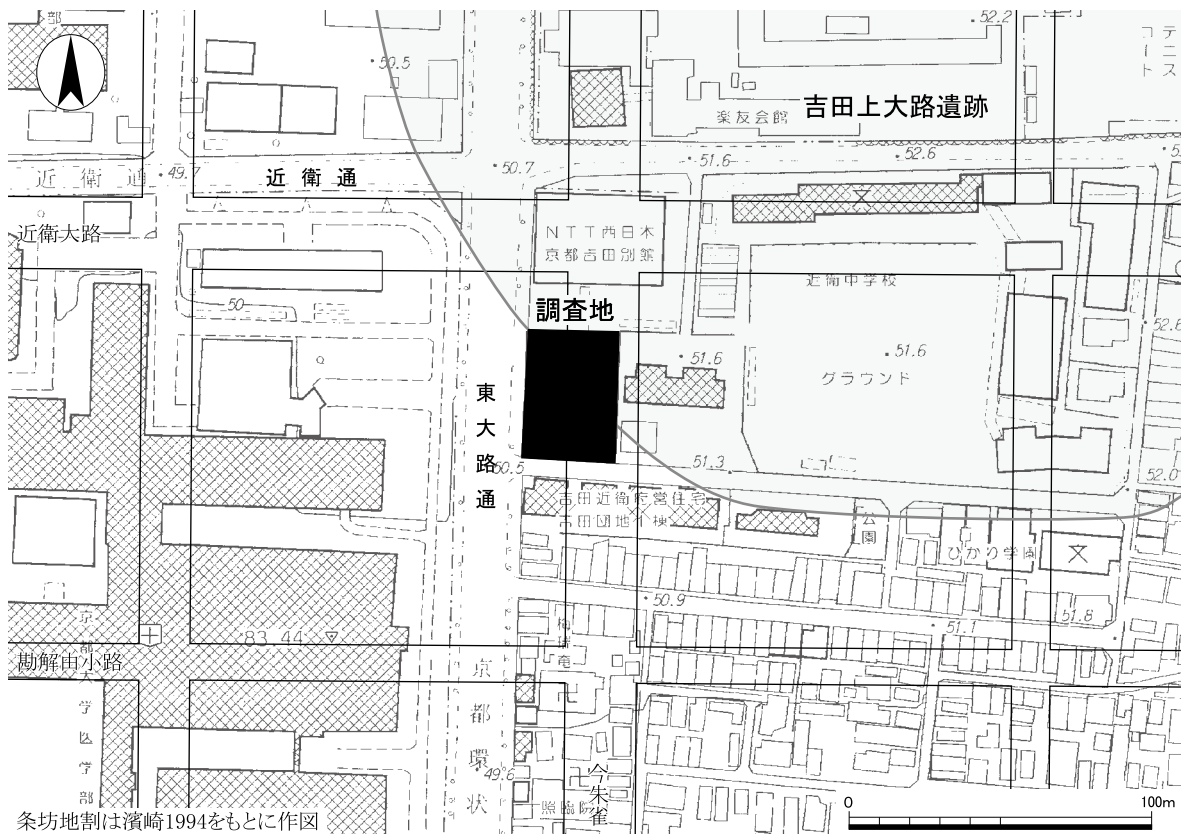


図1 調査位置図 (1:2,500)

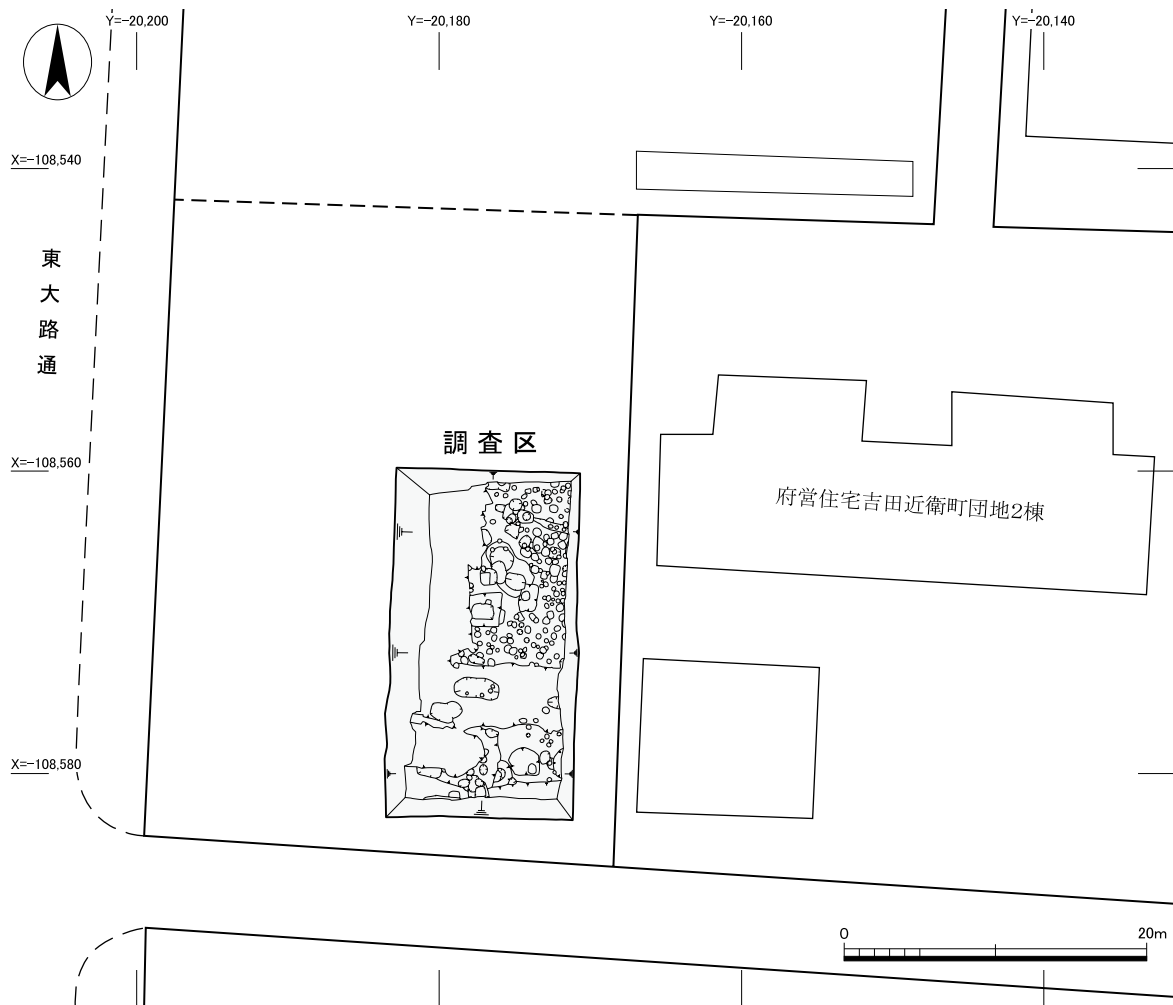


図2 調査区配置図 (1 : 500)



図3 調査前全景 (北から)



図4 調査風景 (北から)

を検出し、写真撮影や実測図を作成した。その後、下層遺構の調査のため、中世遺構の基盤層となる白川砂層を掘り下げたが、遺構は確認できなかった。調査中は適宜、文化財保護課の臨検を受けた。12月12日にすべての調査を終了し、撤収した。

註

- 1) 『京都市遺跡地図台帳【第8版】』京都市文化市民局 2007年

2. 位置と環境

(1) 調査地の環境

調査地は京都盆地の北東、東山山麓と吉田山丘陵間を南流する白川によって形成された扇状地西端部と鴨川左岸の沖積地のほぼ境界に位置する。地形は北東から南西に向かって緩やかに傾斜している。

この扇状地末端の微高地や緩傾斜地には先史時代の遺跡が点在しており、調査地周辺でも弥生時代前期の土石流に由来する堆積物もしくはその下層から、縄文時代から弥生時代前期にかけての流路や遺物が確認されている。飛鳥時代から奈良時代の遺構・遺物は、京都大学構内遺跡を中心に住居跡や鍛冶工房などを確認できる。その分布・量は希薄であるが、条里制施工前後、この周囲にも開発が及んだ可能性が指摘されている。

今回の調査地は、平安時代後期以降開発・整備された白河街区の一画にあたる。白河街区は、白河天皇の御願寺である法勝寺の建立（承保2年〔1075〕）や、院御所である白河殿の造営（嘉保2年〔1095〕）以降、鴨東の地で整備された地域の総称である。東西道路である二条大路末を基軸に街区と道路を配し、そこに六勝寺（法勝寺・尊勝寺・最勝寺・円勝寺・成勝寺・延勝寺）などの寺院や御堂、院御所などが設けられた。また、街区縁辺部には、貴族や僧侶・商人らの居宅、手工業者の工房などの存在も推定されており、院政期における都市的な景観を呈していたと考えられている。

調査区は、白河街区の中心を南北に貫く幹線道路である今朱雀の推定軸線上に位置し、その東には仁平元年（1151）に建立された高陽院泰子の御願寺である福勝院の推定地が所在している¹⁾。

参考文献

- ・清水芳裕「遺跡の形成と地形の変化」『京都大学埋蔵文化財調査報告』Ⅳ 京都大学埋蔵文化財研究センター 1991年
- ・上村和直「院政と白河」『平安京提要』財団法人古代学協会・古代学研究所 1994年
- ・堀内明博「白河街区における地割とその歴史の変遷－考古学の成果から－」『院政期の内裏・大内裏と院御所』平安京・京都研究叢書1 文理閣 2006年

(2) 既往の調査 (図5)

調査1では、平安時代中期の梵鐘鑄造遺構が検出されたほか、鎌倉時代から室町時代の溝や四脚門、塀、井戸、土坑墓などを確認している。調査区中央で検出された南北方向の溝は、白河街区の南北道路である今朱雀の東側溝と推定されている。また、検出された土坑墓は上部に配石を持ち、埋葬施設も木棺・甕棺など多様である。比較的小規模な土坑に埋葬されているものが多い。²⁾

調査2では、室町時代の土取り穴と考えられる不定形土坑を多数検出した。³⁾

調査3では、鎌倉時代から室町時代前期の土器類とともに、密教法具の鋳型や、鋳造に用いる取瓶や灰・炭化物などが出土している。⁴⁾ これら鋳型により製作された密教法具は、福勝院で用いられた可能性が高いと指摘されている。⁵⁾

調査4では、弥生時代前期から江戸時代の遺構・遺物を確認した。特に鎌倉・室町時代の遺構は濃密な分布を示しており、溝や建物跡、土器溜、不定形土坑、集石遺構などを検出した。不定形土坑は土取りを目的としたものと推定され、それが調査地中央の南北溝を挟み西側に集中して分布する一方、同溝の東側では確認できないことから、中世における土地利用の境界がここにあることが明らかとなった。⁶⁾

調査5では、鎌倉時代後期から室町時代前期の敷地境界とみられる溝や、礫・遺物を大量に包含する土坑などを検出した。寺院または宅地跡と想定されている。⁷⁾

調査6では、鎌倉時代後期から室町時代前期の敷地境界とみられる溝や、柱穴、土坑などを検出

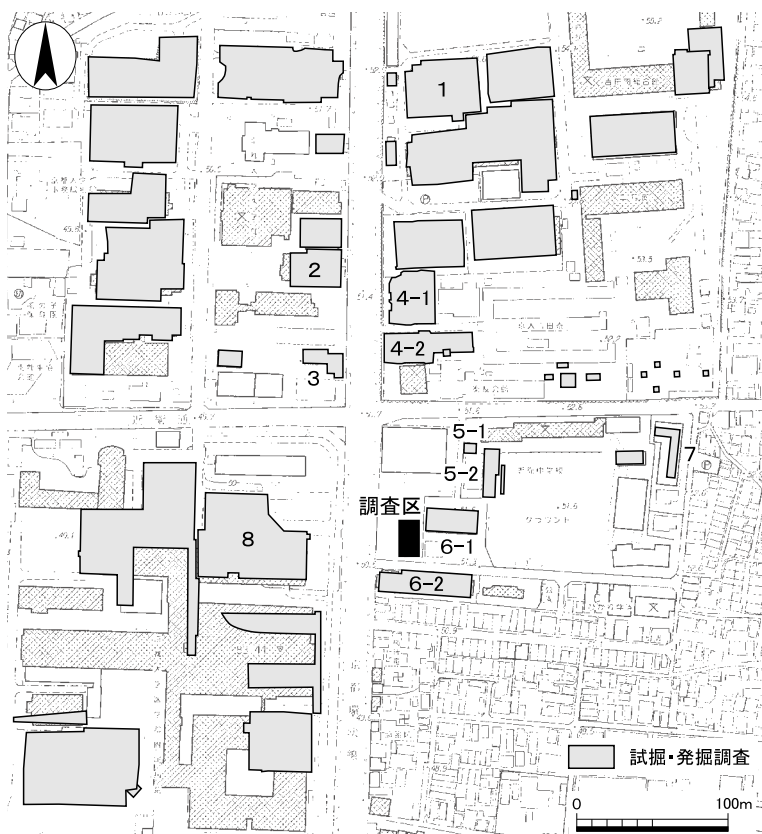


図5 周辺の調査位置図 (1 : 5,000)

した。土坑は集石土坑のほか、木棺を納めた墓と想定される土坑などが確認されており、周辺に墓域が存在したと推定されている。⁸⁾ また、6-1地点で検出された南北溝は、今朱雀の東側溝と推定されている。⁹⁾

調査7では、室町時代の土坑や、中世の東西溝などを検出した。土坑は、大量の瓦や土器類、ベンガラを包含する大型の集石遺構と、多量の土師器皿と瓦器鍋が共伴する小土坑が確認された。¹⁰⁾

調査8では、中世の溝や土器溜、多数の井戸を検出した。また、大規模な近世の土取り穴か

ら、中世の土器類とともに、鋳型や坩堝、鑪の羽口などの鋳造関連遺物¹¹⁾が出土している。

註

- 1) 濱崎一志『都市空間の変遷に関する歴史的考察』京都大学 1994年 による白河街区の地割復元案に基づく。
- 2) 五十川伸矢・飛野博文「京都大学教養学部構内A P 22区の発掘調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報』昭和57年度 京都大学埋蔵文化財研究センター 1984年
濱崎一志「白河の条坊地割」『京都大学埋蔵文化財調査報告』Ⅳ 京都大学埋蔵文化財研究センター 1991年
註1文献と同じ
- 3) 五十川伸矢「京都大学医学部構内A N 20区の発掘調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報』昭和58年度 京都大学埋蔵文化財研究センター 1986年
- 4) 濱崎一志「京都大学医学部構内A L 20区の発掘調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報』1987年度 京都大学埋蔵文化財研究センター 1990年
- 5) 註1文献と同じ
- 6) 伊藤淳史・富井 眞・内記 理「京都大学吉田南構内A M 21区の発掘調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報』2014年度 京都大学文化財総合研究センター 2016年
- 7) 近藤奈央『白河街区跡・吉田上大路町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告2011-3 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2012年
- 8) 南 博史『吉田近衛町遺跡』京都文化博物館調査研究報告第4集 財団法人京都文化財団 1989年
- 9) 註1文献と同じ
- 10) 平良泰久・塩沢珠代・杉本 宏・橋本高明「吉田近衛町遺跡発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報(1978)』京都府教育委員会 1978年
- 11) 五十川伸矢は京都大学医学部構内に中世の鋳造工房の存在を推定している。
五十川伸矢・濱崎一志・伊東隆夫「京都大学病院構内A J 18・A J 19区の発掘調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報』1986年度 京都大学埋蔵文化財研究センター 1989年
五十川伸矢「鴨東白河の鋳物工房-京都大学構内の鋳造に関する遺跡-」『京都大学構内遺跡調査研究年報』昭和60年度 京都大学埋蔵文化財研究センター 1988年
五十川伸矢「中世白河の鋳造工房」『京都大学埋蔵文化財調査報告』Ⅳ 京都大学埋蔵文化財研究センター 1991年

3. 遺 構

(1) 基本層序 (図6)

基本層序は、現地表から0.6mまでが近現代盛土および近世耕土である。以下1.0mまでが中世の遺物を包含する層であり、上から暗褐色微砂層(第3層)、褐灰色微砂層(第7層)、灰黄褐色微砂層(第19層)の順に堆積する。第23層以下が弥生時代以降、中世までに堆積した砂層(地山)である。砂層は黄色ないし白色を呈する砂粒によって構成されており、シルトや微砂・細砂・粗砂より成る級化層理が確認できる。下層遺構の確認のため、標高49.1mまで掘り下げたが、遺構面となりうる安定した土層は確認できなかった。

今回の調査では、第7層上面を第1面、第19層上面を第2面、第23層上面を第3面として調査を行った。

(2) 遺構の概要 (表1)

主に鎌倉時代から室町時代にかけての遺構を435基検出した。種類は柱穴(Pit)や溝(SD)、土坑(SK)がある。なお、第3面で検出した柱穴のほとんどは第1面・第2面で成立したものと考えられるが、以下では調査状況に即して記述している。

柱穴の並びから柱列(SA)や掘立柱建物(SB)を復元できた。柱列は、柵もしくは建物の一部と考えられる。土坑には、井戸の可能性のある大型円形土坑のほか、土取り穴がある。また、墓と考えられる長さ2m以上の長方形土坑を複数検出している。

第1面では室町時代の遺構を確認した。遺構は南北溝と柱穴群・井戸と考えられる土坑を検出した。柱穴の一部から主軸を南北にとる柱列を復元した。

第2面では鎌倉時代から室町時代の遺構を確認した。遺構は南北溝と柱穴群・土坑を検出した。柱穴の一部から主軸を南北にとる柱列を復元した。

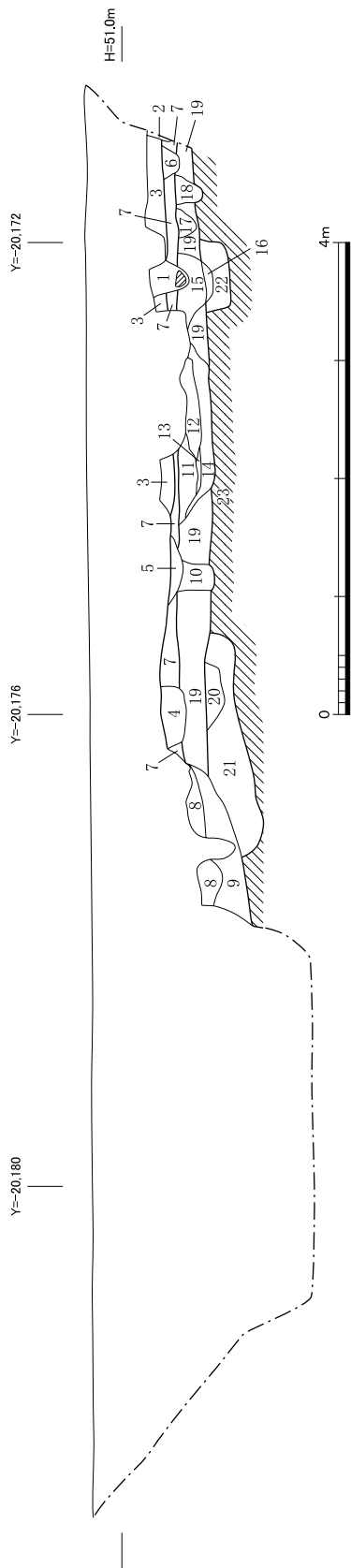
第3面では鎌倉時代の遺構を確認した。遺構は墓と考えられる土坑群を検出した。

(3) 第1面(室町時代)の遺構(図7、図版1)

SD42 調査区中央部で検出した南北の溝で、幅約0.6~0.7m、深さ約0.1mである。主軸方向は真北に対して東に8°5′振れる。南はX=-108,572付近で攪乱により途切れ、北は調査区外に延びる。

表1 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
鎌倉時代 ~室町時代	SA511~516、SB517、SD42・189、 SK20・22・87・185・206・211・220・222・253・265・283・ 286・289・311・341、Pit172	



- | | | |
|----|-----------------|----------------------------------|
| 1 | 10YR3/2黒褐色微砂 | 炭少量・土師器含む (Pit49) |
| 2 | 10YR3/2黒褐色微砂 | 土師器少量含む (Pit502) |
| 3 | 10YR3/3暗褐色微砂 | φ 6cmまでの礫少量・炭少量・土師器含む |
| 4 | 10YR4/2灰黄褐色細砂 | 炭・土師器少量含む (Pit55) |
| 5 | 10YR3/4暗褐色細砂 | 炭微量・土師器少量含む (SD42) |
| 6 | 10YR3/2黒褐色微砂 | 炭・土師器含む (Pit501) |
| 7 | 10YR4/2灰黄褐色微砂 | 炭・土師器少量含む |
| 8 | 10YR3/2黒褐色細砂 | 土師器微量含む (SK100) |
| 9 | 10YR2/2黒褐色微砂 | 炭微量含む |
| 10 | 10YR3/2黒褐色微砂 | φ 3cmまでの礫少量・炭少量・土師器微量含む (Pit601) |
| 11 | 10YR4/1褐色微砂 | 土師器少量含む |
| 12 | 10YR3/2黒褐色微砂 | 炭・土師器少量含む |
| 13 | 10YR2/2黒褐色微砂 | 炭・土師器少量含む (SD189) |
| 14 | 10YR4/2灰黄褐色細砂 | 炭・土師器微量含む |
| 15 | 10YR4/1褐色微砂 | 炭微量・土師器少量含む |
| 16 | 10YR4/2灰黄褐色微砂 | 炭微量・土師器少量含む (Pit120) |
| 17 | 10YR4/2灰黄褐色微砂 | 炭微量・土師器少量含む (Pit602) |
| 18 | 10YR4/2灰黄褐色微砂 | 炭少量・土師器含む (Pit603) |
| 19 | 10YR4/2灰黄褐色微砂 | 炭・土師器微量含む |
| 20 | 10YR3/2黒褐色粗砂 | 炭・土師器微量含む (pit251) |
| 21 | 10YR4/2灰黄褐色粗砂 | 炭・土師器微量含む (SK252) |
| 22 | 10YR5/3にぶい黄褐色微砂 | 炭・土師器微量含む (SA516 Pit238) |
| 23 | 10YR4/3にぶい黄褐色微砂 | (地山) |

図6 調査区北壁断面図 (1 : 60)

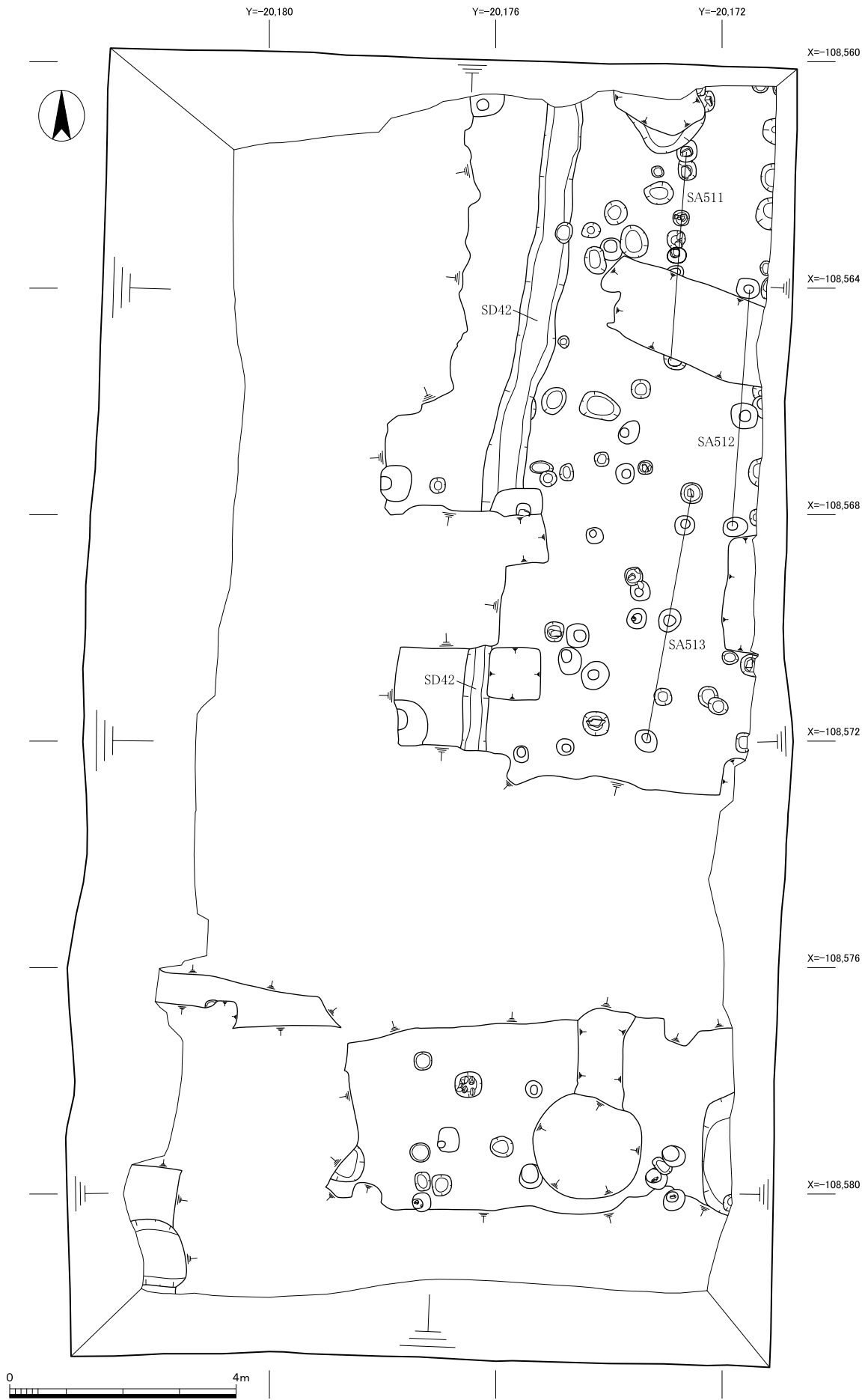


图7 第1面遺構平面図 (1 : 100)

SA511 (図8) 調査区北東部で検出した南北方向の柱列である。主軸方向は真北に対して東に4° 20′ 振れる。3基の柱穴(北からPit127・133・140)によって構成されており、Pit127・133には根石がある。柱間は1.8m前後である。掘形はいずれも円形で、直径0.3~0.4m、深さ0.05~0.2mを測る。

SA512 (図8) 調査区北東部で検出した3基の柱穴(北からPit74・75・67)からなる南北方向の柱列である。主軸方向は真北に対して東に4° 7′ 振れる。柱間は北から2.2m・2.1mである。掘形は直径0.35~0.45m、深さ0.1~0.2mを測る。

SA513 (図8、図版1) 調査区東部で検出した3基の柱穴(北からPit66・34・41)からなる南北方向の柱列である。主軸方向は真北に対して東に10° 15′ 振れる。Pit66には根石がある。柱間は約2.2mである。掘形はいずれも円形で、直径0.3~0.45m、深さ0.15~0.3mを測る。

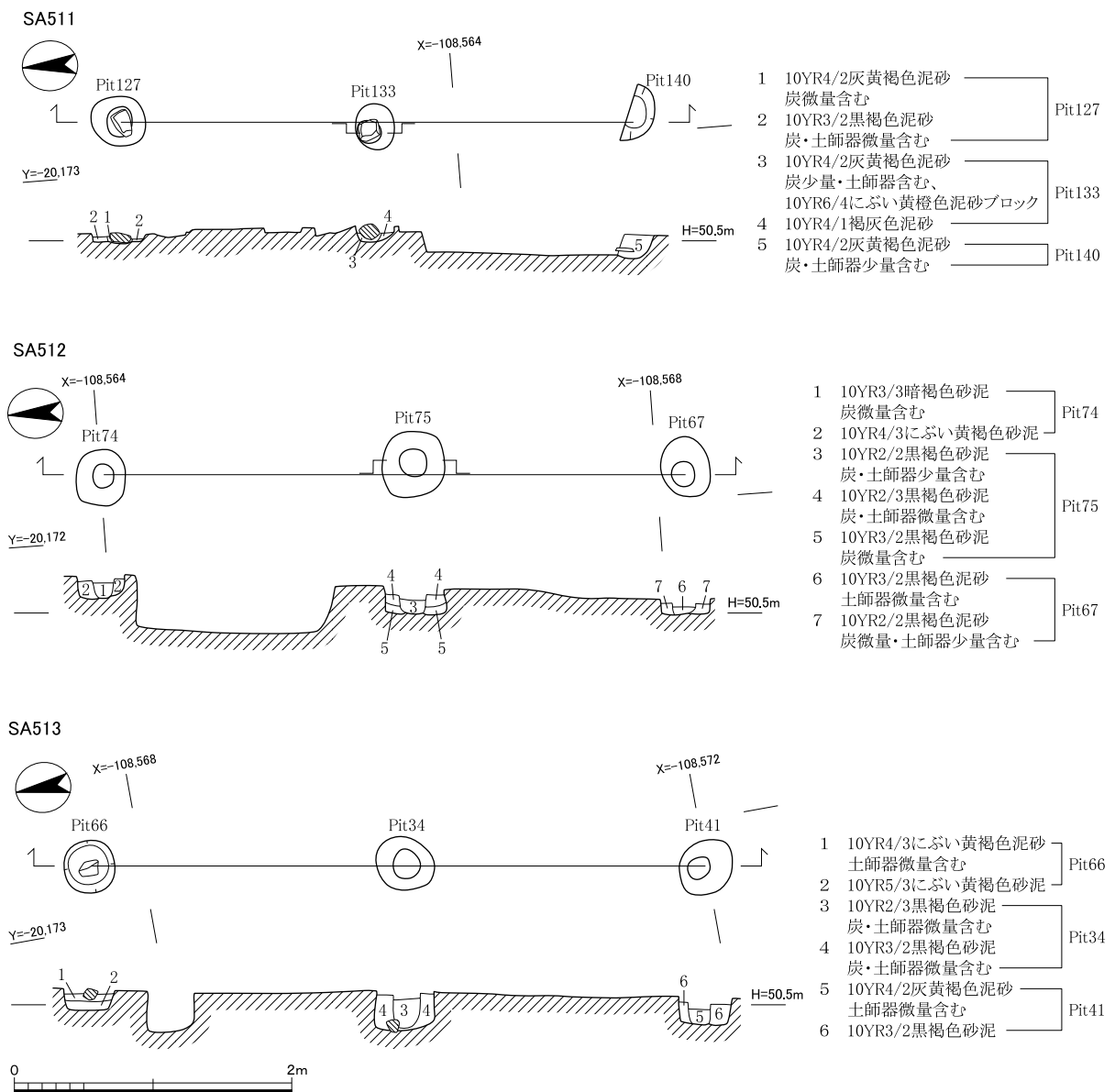


図8 SA511~513実測図(1:50)

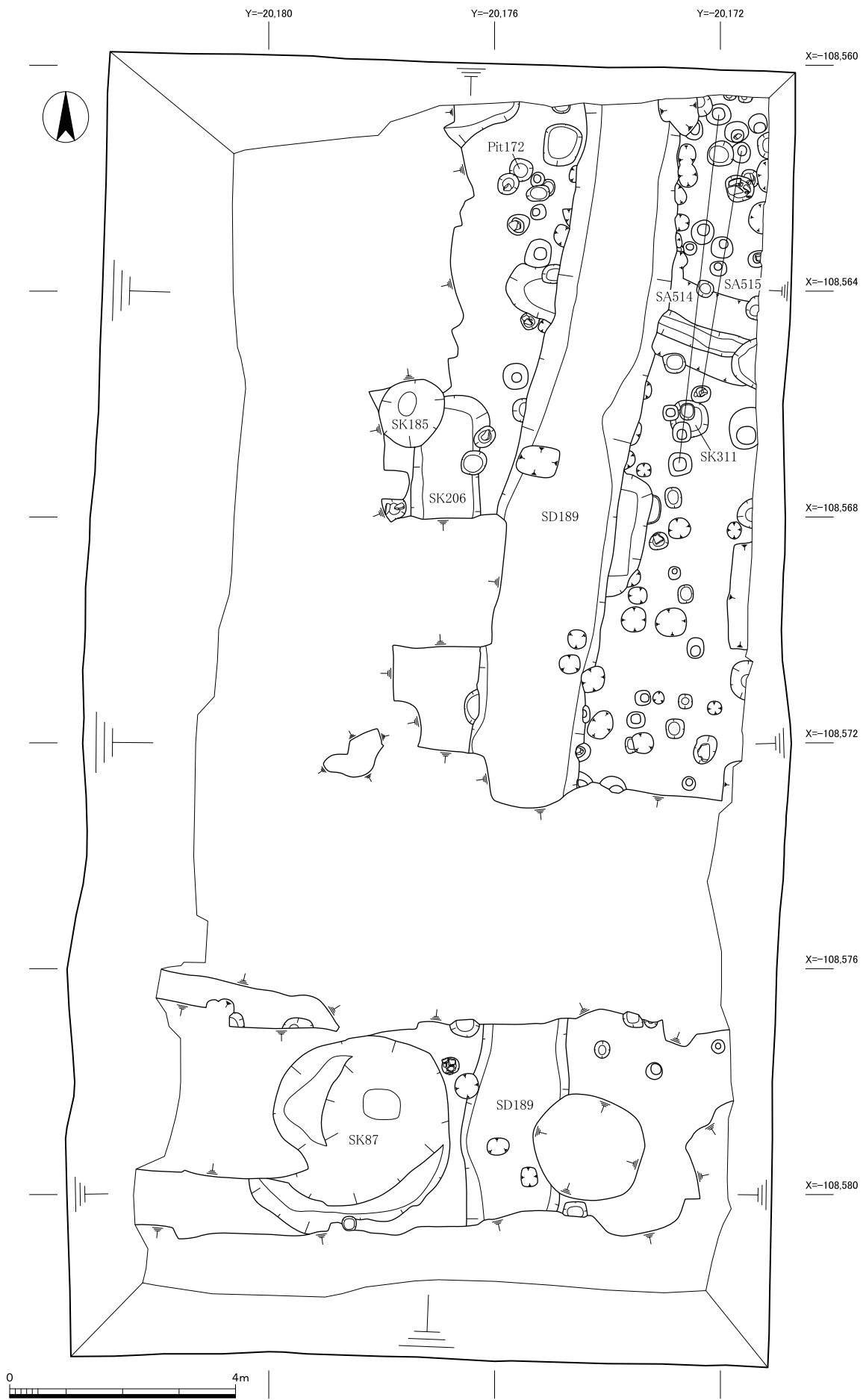


图9 第2面遺構平面図 (1 : 100)

(4) 第2面（鎌倉時代から室町時代）の遺構（図9、図版2）

SD189（図版2） 調査区中央部で検出した南北の溝で、幅約2.0m、深さ0.3m前後である。主軸方向は真北に対して東に6°2′振れる。南北は両側共に調査区外へ延びる。

SA514（図10） 調査区北東部で検出した南北方向の柱列である。3基の柱穴（北からPit121・198・148）を確認した。Pit121・198の柱間は約2.1mである。Pit198とPit148の間は、現代の攪乱により削平されており、本来は4基の柱穴により構成されていたと考えられる。SD189の西岸に位置しており、主軸方向は真北に対して東に6°35′振れる。掘形は直径0.4m前後、深さ0.15～0.25mを測る。

SA515（図10） 調査区北東部で検出した3基の柱穴（北からPit123・136・141）からなる南北方向の柱列である。主軸方向は真北に対して東に9°17′振れる。Pit141には根石がある。柱間は約2.1mである。掘形は直径0.25～0.45m、深さ約0.2mを測る。

SK87（図11、図版2） 調査区南西部で検出した土坑である。西半が攪乱によって削平されている。検出径3.5m、深さ1.6mを測る。埋土上半は0.2m大の礫を多量に包含する。礫とともに常滑産の焼締陶器甕などの土器類や鉄滓が多数出土した。出土した土器類で完形に復元できるものは少ない。

SK185 調査区中央部で検出した断面播鉢状を呈する円形の土坑である。径1.2m、深さ0.6mを

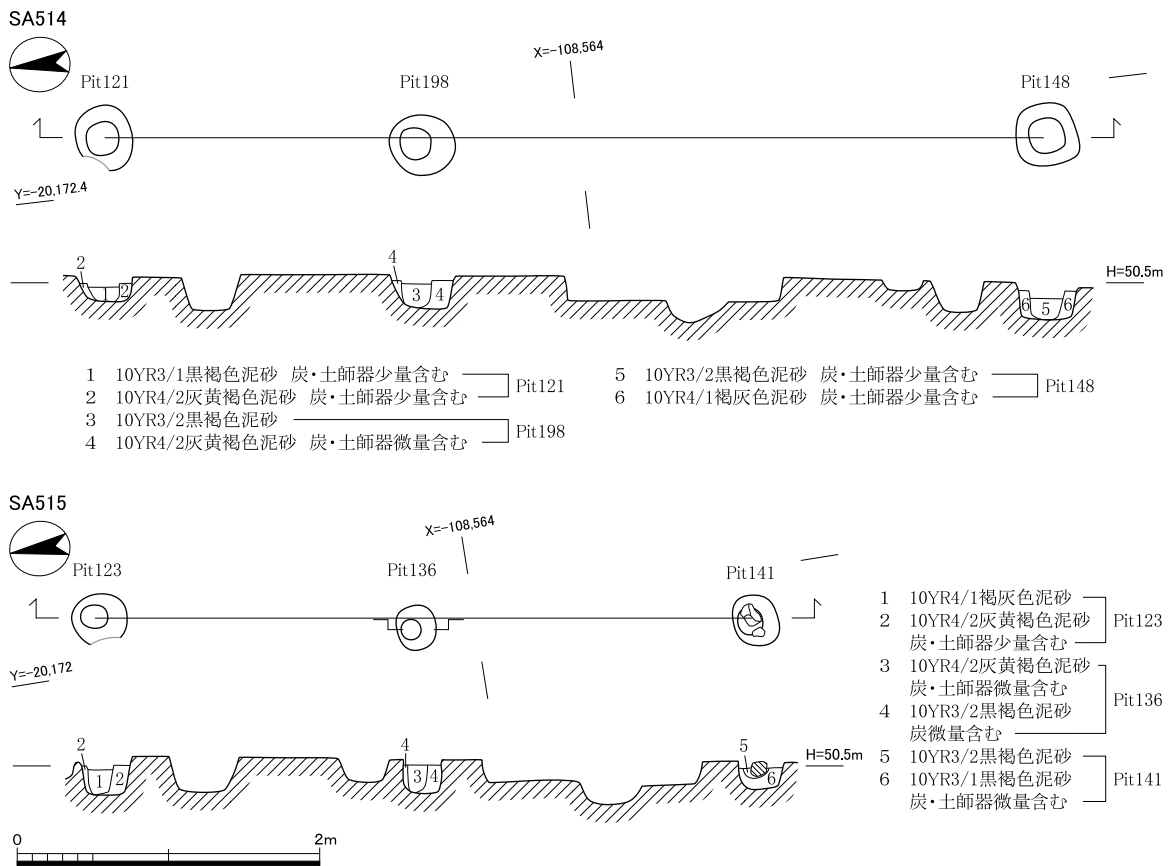


図10 SA514・515実測図（1：50）

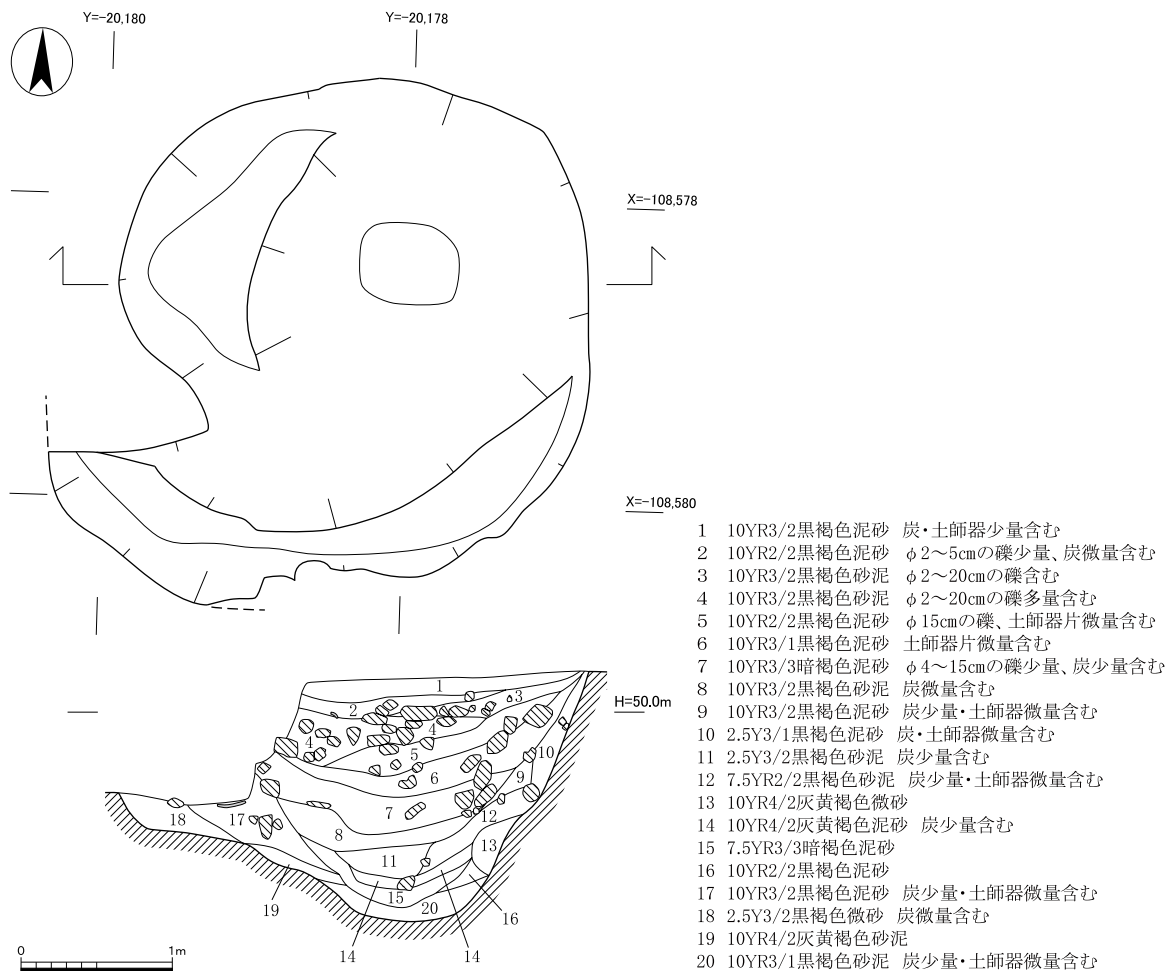


図11 SK87実測図 (1 : 50)

測る。埋土から、完形の土師器皿とともに常滑産の焼締陶器甕の破片が出土した。

SK206 調査区中央部で検出した平面長方形を呈する土坑である。南側は現代の攪乱で削平されている。南北2.1m、東西1.2m、深さ0.5mを測る。埋土から土器片や石鍋片が出土している。

SK311 (図12) 調査区東部で検出した断面播鉢状を呈する円形の土坑である。径約0.7m、深さ約0.2mを測る。土坑中央に常滑産の焼締陶器甕の底部が正位で据えられていた。土坑上半は後世の削平によって失われている。

Pit172 調査区北部で検出した柱穴である。径約0.4m、深さ約0.15mを測る。砥石が出土している。

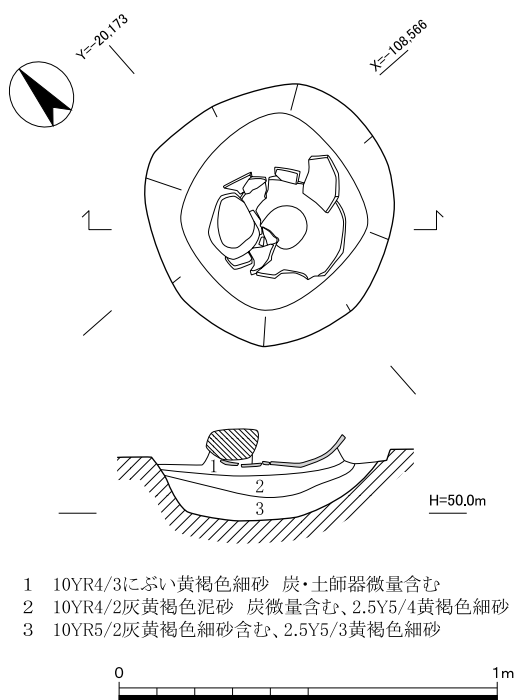


図12 SK311実測図 (1 : 20)

(5) 第3面（鎌倉時代）の遺構（図13、図版3・4）

SA516（図14） 調査区北東部で検出した柱列である。柱穴は平面方形を呈する。主軸方向は真北に対して西に1°23′振れる。柱間は1.8m前後である。掘形は直径0.4～0.5m、深さ約0.1～0.2m、柱痕跡は径0.15mを測る。

SB517（図15） 調査区北東部で検出した東西4間、南北2間の掘立柱建物である。方位は梁行方向で真北に対して東に約3°振れる。柱間は梁行1.6～1.9m、桁行0.8～1.5mと不揃いである。掘形は平面円形を呈し、直径0.25～0.45m、深さ0.1～0.25mを測る。Pit240・254・258・379には根石がある。

SK20 調査区東端部で検出した平面隅丸長方形の土坑である。土坑の東側は調査区外に続く。上部は現代の攪乱によって削平されている。検出面での規模は東西0.9m、南北0.8m、深さ0.4mを測る。

SK22（図16、図版3） 調査区中央部で検出した平面隅丸長方形の土坑である。上部は現代の攪乱によって削平されている。検出面での規模は東西3.0m、南北1.3mである。深さは0.9mを測る。掘形底面から0.1m前後の厚さで灰黄色砂ブロックを含む暗灰黄色砂層を平坦に敷き、床面（図16の23層上面）を形成する。床面上には、南から流れ込む遺物混じりの灰褐色・黒褐色砂泥（図16の12～19層）が堆積する。埋土からは鎌倉時代の遺物が大量に出土した。上下2面の遺物の集積がある。上面（図16のA面）の遺物は、完形の土師器皿と東播系須恵器の播鉢、瓦器鍋、鉄釘などが出土した。下面（同B面）では、完形の土師器皿と瓦器椀が出土している。両面の遺物に時期差はない。両者ともに南側から北側に向かって傾斜した状態で出土している。

SK211 調査区南東部で検出した平面隅丸長方形の土坑である。検出した規模は東西0.7m、南北0.9mである。深さ0.6mを測る。完形の土師器皿が出土している。

SK220 調査区南部で検出した平面隅丸長方形の土坑である。南半分をSK87に削平されている。検出した規模は東西0.9m、南北0.6mである。深さ0.6mを測る。完形の土師器皿が出土している。

SK222 SK22の南西側で検出した平面長方形の土坑である。現代の攪乱によって大きく削平されている。検出面での規模は東西2.1m、南北1.3mである。深さは0.6mを測る。土坑底部は床土が残存する程度で、床面は削平されている。土坑南側肩口からは完形の土師器皿が出土した。

SK252 調査区北端部で検出した土坑である。土坑の北側は調査区外にあたり、西側は削平されている。規模は東西1.9m、南北0.5m、深さ0.5mを測る。

SK265（図17、図版4） 調査区北部で検出した平面円形の土坑である。直径0.8m、深さ0.45mを測る。埋土から炭とともに、完形の土師器皿や白磁壺の底部などが出土した。

SK286（図17、図版4） 調査区中央部で検出した平面隅丸長方形の土坑である。上部はSD189によって削平されている。検出面での規模は東西1.5m、南北1.1mである。深さは0.3mを測る。埋土からは、拳大の礫や焼土とともに、須恵器甕や壺、石製硯、平瓦などが出土した。出土した土器

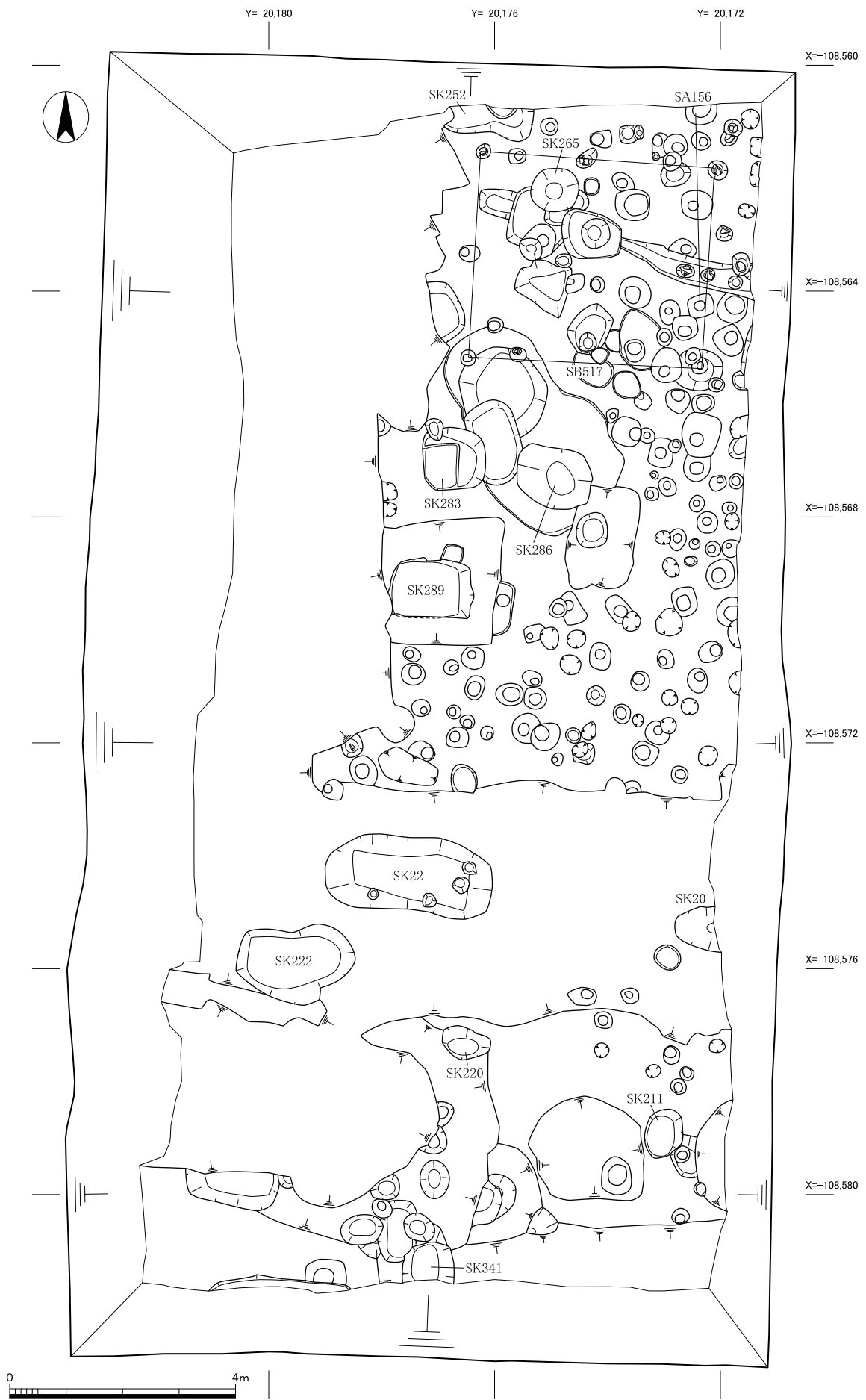


图13 第3面遺構平面図 (1 : 100)

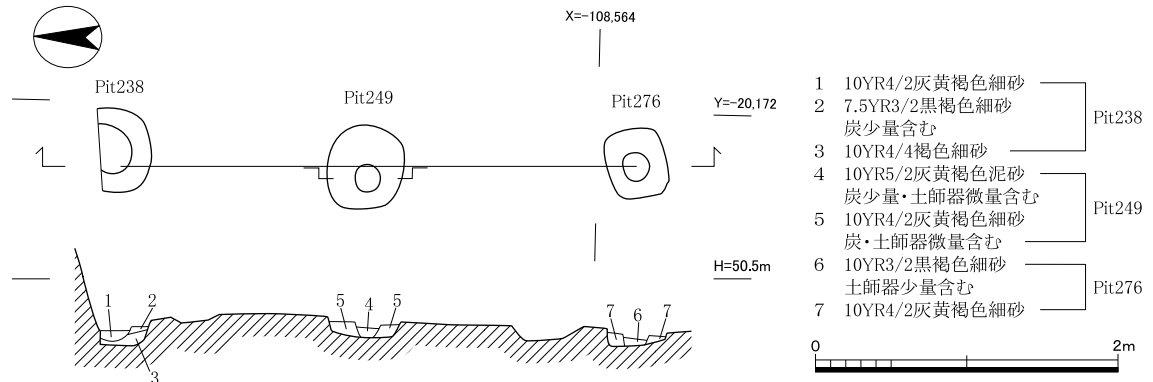
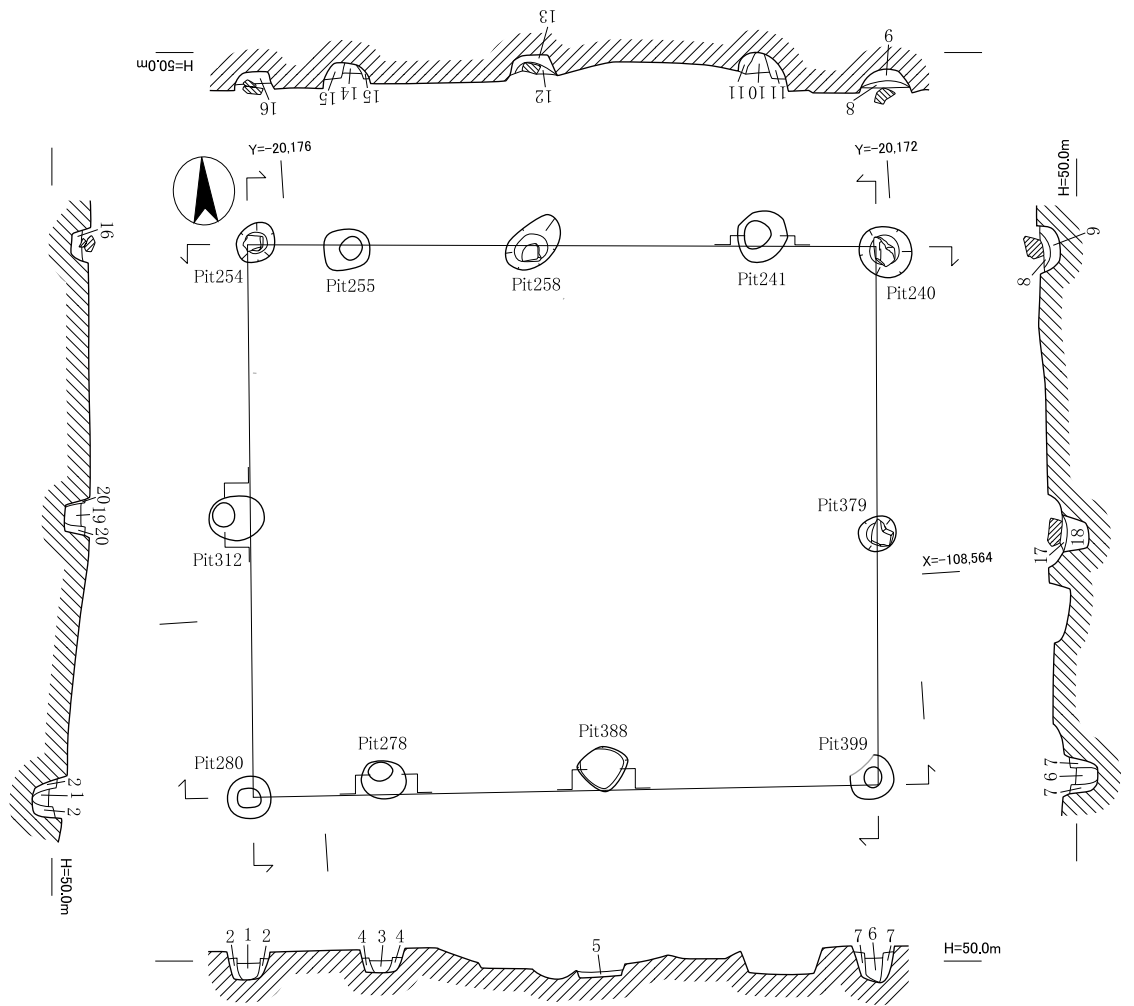


図14 SA516実測図 (1 : 50)



- | | | |
|----------------------------------|-------|--------|
| 1 10YR4/2灰黄褐色粗砂 炭・土師器少量含む | _____ | Pit280 |
| 2 10YR4/1褐灰色粗砂 炭・土師器少量含む | _____ | Pit278 |
| 3 10YR3/2黒褐色粗砂 炭・土師器微量含む | _____ | Pit388 |
| 4 10YR4/2灰黄褐色粗砂 φ9cmの礫、炭少量含む | _____ | Pit399 |
| 5 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 | _____ | Pit240 |
| 6 10YR4/2灰黄褐色微砂 | _____ | Pit379 |
| 7 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 炭・土師器微量含む | _____ | Pit312 |
| 8 10YR4/2灰黄褐色細砂 炭微量含む | _____ | Pit241 |
| 9 10YR4/2灰黄褐色砂泥 | _____ | Pit258 |
| 10 10YR4/2灰黄褐色細砂 炭微量含む | _____ | Pit255 |
| 11 10YR3/2黒褐色細砂 炭微量、土師器少量含む | _____ | Pit254 |
| 12 10YR4/2灰黄褐色微砂 φ13~15cmの礫含む | _____ | Pit241 |
| 13 10YR3/2黒褐色細砂 炭微量、土師器少量含む | _____ | Pit240 |
| 14 10YR3/2黒褐色細砂 炭微量、土師器少量含む | _____ | Pit379 |
| 15 10YR3/2黒褐色粗砂 炭・土師器少量含む | _____ | Pit312 |
| 16 10YR4/2灰黄褐色粗砂 炭・土師器少量含む | _____ | Pit240 |
| 17 10YR4/2灰黄褐色微砂 φ17cmの礫含む | _____ | Pit379 |
| 18 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、10YR4/2灰黄褐色細砂 | _____ | Pit379 |
| 19 10YR3/2黒褐色粗砂 炭微量含む | _____ | Pit312 |
| 20 10YR4/2灰黄褐色粗砂 炭・土師器微量含む | _____ | Pit312 |

図15 SB517実測図 (1 : 50)

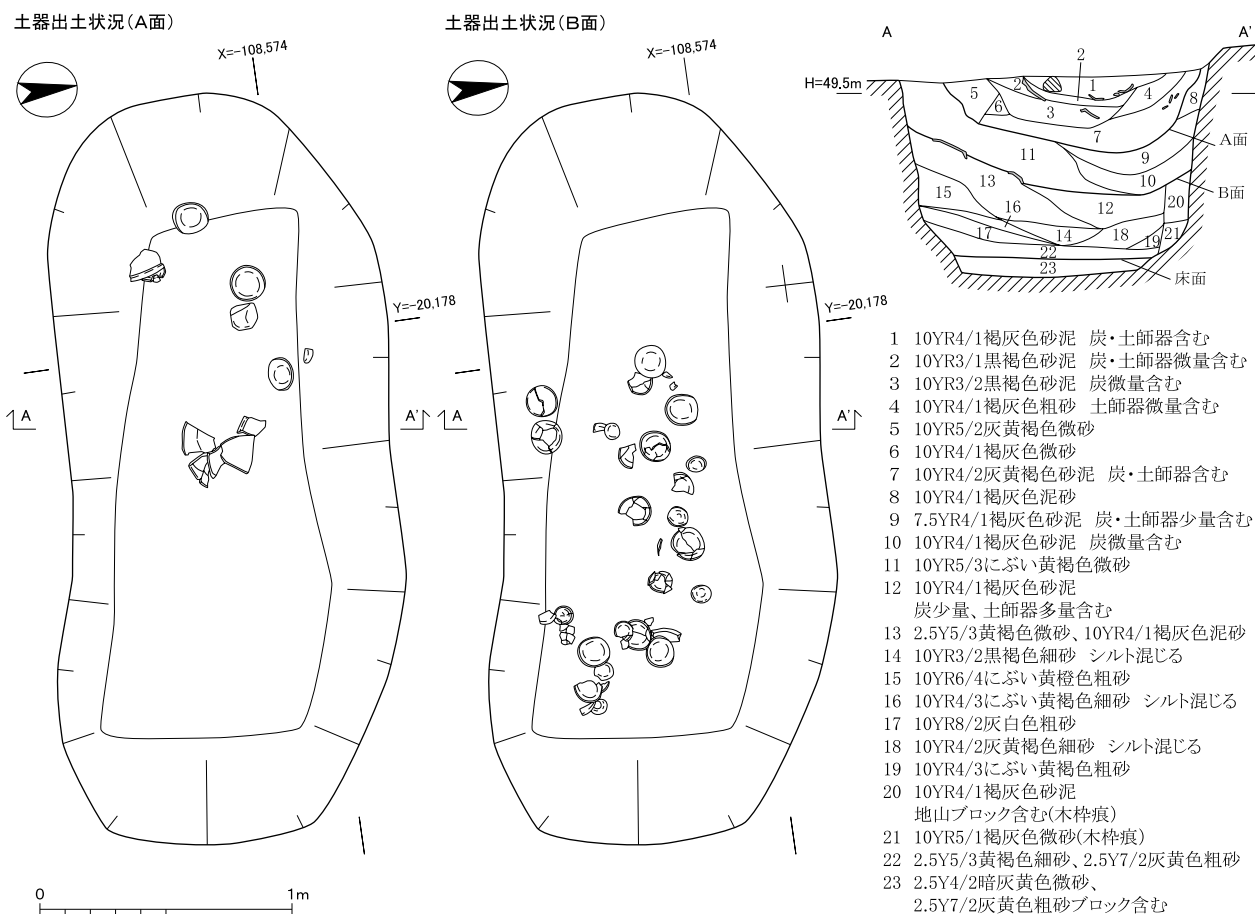


図16 SK22実測図(1:30)

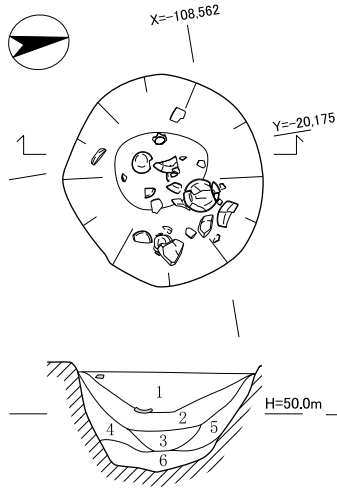
類で完形に復元できるものは少ない。

SK283 SK286西側で検出した平面方形の土坑である。規模は一辺1.1mを測る。深さ0.9mである。

SK289 (図17、図版4) 調査区中央部で検出した平面長方形の土坑である。上部は現代の攪乱によって削平されている。検出面での規模は東西1.4m、南北1.0mである。深さは検出面から0.75m、遺構面0.9mを測る。底面から0.25m前後の厚さで床土を平坦に敷き、床面(図17の10層上面)を形成する。床面上は、掘形埋土と想定する変色部分の内部に、灰や炭・遺物・骨片を含む黒褐色泥砂が堆積している。埋土からは鎌倉時代の遺物が大量に出土しており、少なくとも上下2面の遺物の集積を確認した。上面(A面)の遺物は、完形の土師器皿や鉄製品が出土した。下面(B面)では、完形の土師器皿と鉄釘が出土している。両面の遺物に時期差はない。床面直上からは祥符元寶が出土している。

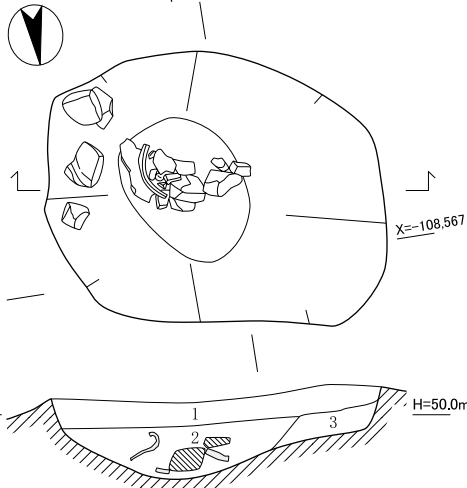
SK341 (図17、図版4) 調査区南端部で検出した平面隅丸長方形の土坑である。土坑の南側は調査区外に続く。上部は現代の攪乱によって削平されている。規模は東西0.7m、南北0.7m以上である。深さ0.6mを測る。土坑底面からは、常滑甕の体部下半が、内面を上にした状態で出土した。埋土からは、白色土器壺や灰釉系陶器、青磁碗などが出土している。

SK265



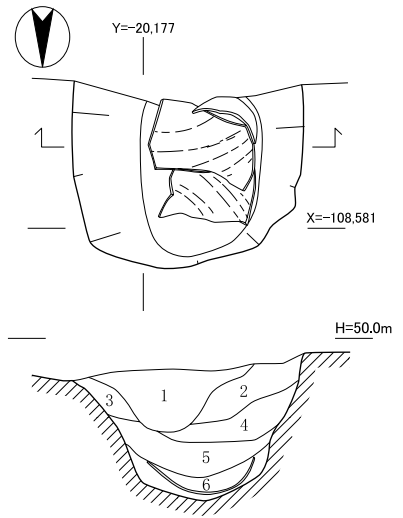
- 1 10YR4/2灰黄褐色粗砂 炭、土師器含む
- 2 10YR3/4暗褐色細砂 炭少量、土師器含む
- 3 10YR3/3暗褐色細砂
- 4 10YR4/4褐色細砂
- 5 10YR3/4暗褐色泥砂
- 6 10YR3/2黒褐色細砂 炭微量含む

SK286



- 1 10YR3/2黒褐色砂泥 炭、焼土、土師器微量含む
- 2 10YR2/2黒褐色砂泥 φ3~15cmの礫、焼土、瓦、土器多量含む
- 3 10YR3/3暗褐色砂泥 炭、土師器少量含む

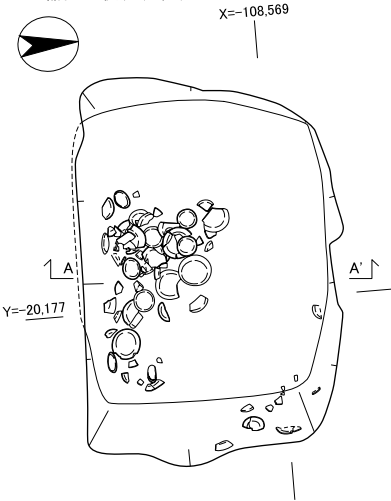
SK341



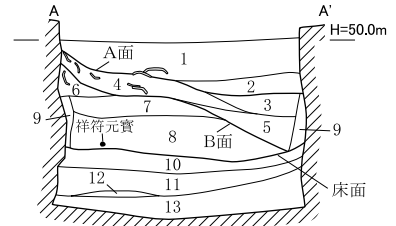
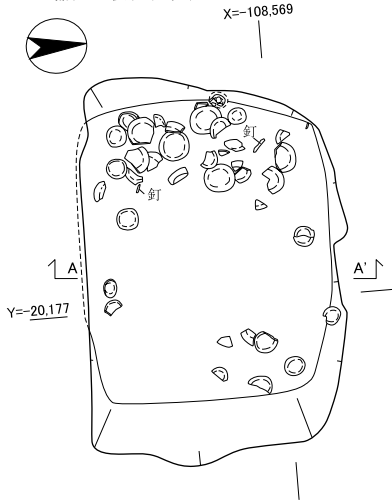
- 1 10YR3/2黒褐色砂泥 φ0.2~1.5cmの礫、炭少量含む
- 2 10YR2/2黒褐色砂泥 炭、土師器少量含む
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
- 4 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 φ0.2~1.5cmの礫含む
- 5 10YR3/3暗褐色砂泥 炭、焼土微量含む
- 6 10YR3/4暗褐色砂泥 炭、焼土微量含む

SK289

土器出土状況 (A面)



土器出土状況 (B面)



- 1 10YR3/2黒褐色砂泥 炭微量、土師器多量含む
- 2.5Y5/4黄褐色微砂 ブロック混じる
- 2 7.5YR2/2黒褐色泥砂 土師器多量含む、2.5Y5/4黄褐色微砂 ブロック混じる
- 3 7.5YR3/2黒褐色細砂 炭、土師器微量含む
- 4 7.5YR3/1黒褐色泥砂 土師器多量含む、2.5Y5/4黄褐色微砂 ブロック混じる
- 5 10YR2/1黒色細砂 炭、土師器少量含む、10YR4/3にぶい黄褐色細砂
- 6 10YR4/2灰黄褐色細砂 炭微量、土師器少量含む
- 7 10YR1.7/1黒色微砂 炭、土師器少量、灰多量含む、7.5YR3/3暗褐色細砂
- 8 10YR3/2黒褐色泥砂 炭少量、灰多量含む
- 9 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 炭、土師器少量含む (木枠痕)
- 10 7.5Yr2/2黒褐色細砂 炭、土師器少量含む
- 11 10YR4/2灰黄褐色粗砂 炭、土師器少量含む
- 12 10YR4/4褐色粗砂
- 13 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 炭、土師器少量含む



図17 SK265・286・289・341実測図 (1:30)

4. 遺物

(1) 遺物の概要 (表2)

弥生時代の遺物は微量である。

平安時代の遺物は、須恵器杯・円面硯や灰釉陶器、緑釉陶器が中世の遺構に混入して少量出土した。

鎌倉時代から室町時代の遺物は、今回の調査で出土した遺物の多くを占める。土師器皿、須恵器甕・播鉢、灰釉系陶器、瓦器椀、焼締陶器甕・播鉢、輸入陶磁器（白磁椀・壺、青磁椀）、平瓦、石鍋、石製硯、鉄釘、銭貨などが出土した。瓦類の出土は少ない¹⁾。

(2) 土器類 (図18～22、図版5・6、付表1)

弥生時代・平安時代 (図18、図版5)

1は弥生土器の広口壺である。口縁端部の外面に1条の沈線を巡らした後、上下からの押圧で波打たせている。SK206から出土した。

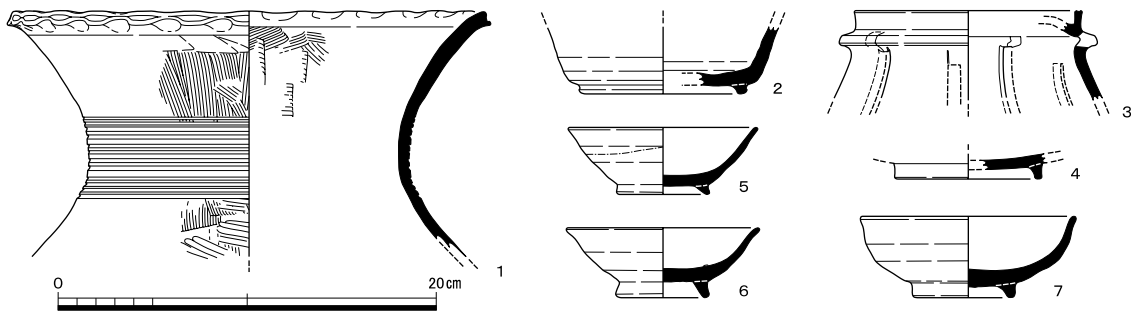


図18 出土土器実測図1 (1:4)

表2 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
弥生時代	弥生土器		弥生土器 1点		
平安時代	須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器		須恵器 2点、灰釉陶器 3点、緑釉陶器 1点		
鎌倉時代 ～室町時代	土師器、白色土器、須恵器、灰釉系陶器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、石製品、金属製品		土師器104点、白色土器 1点、須恵器 3点、灰釉系陶器 4点、瓦器10点、施釉陶器 1点、焼締陶器 5点、輸入陶磁器 8点、瓦類 1点、土製品 2点、石製品10点、金属製品 8点		
合計		75箱	164点 (6箱)	8箱	61箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、遺物を抽出したため、出土時より12箱多くなっている。

2は須恵器の杯Bである。SK252から出土した。3は須恵器の円面硯である。第3層から出土した。4は緑釉陶器の皿である。第3層から出土した。5・6は灰釉陶器の小椀、7は灰釉陶器の椀である。5～7はSK341から出土した混入品であり、時期は11世紀の特徴を示す。

鎌倉時代から室町時代

SK341 出土土器（図19、図版5） 灰釉系陶器・白色土器・輸入陶磁器・焼締陶器が出土した。

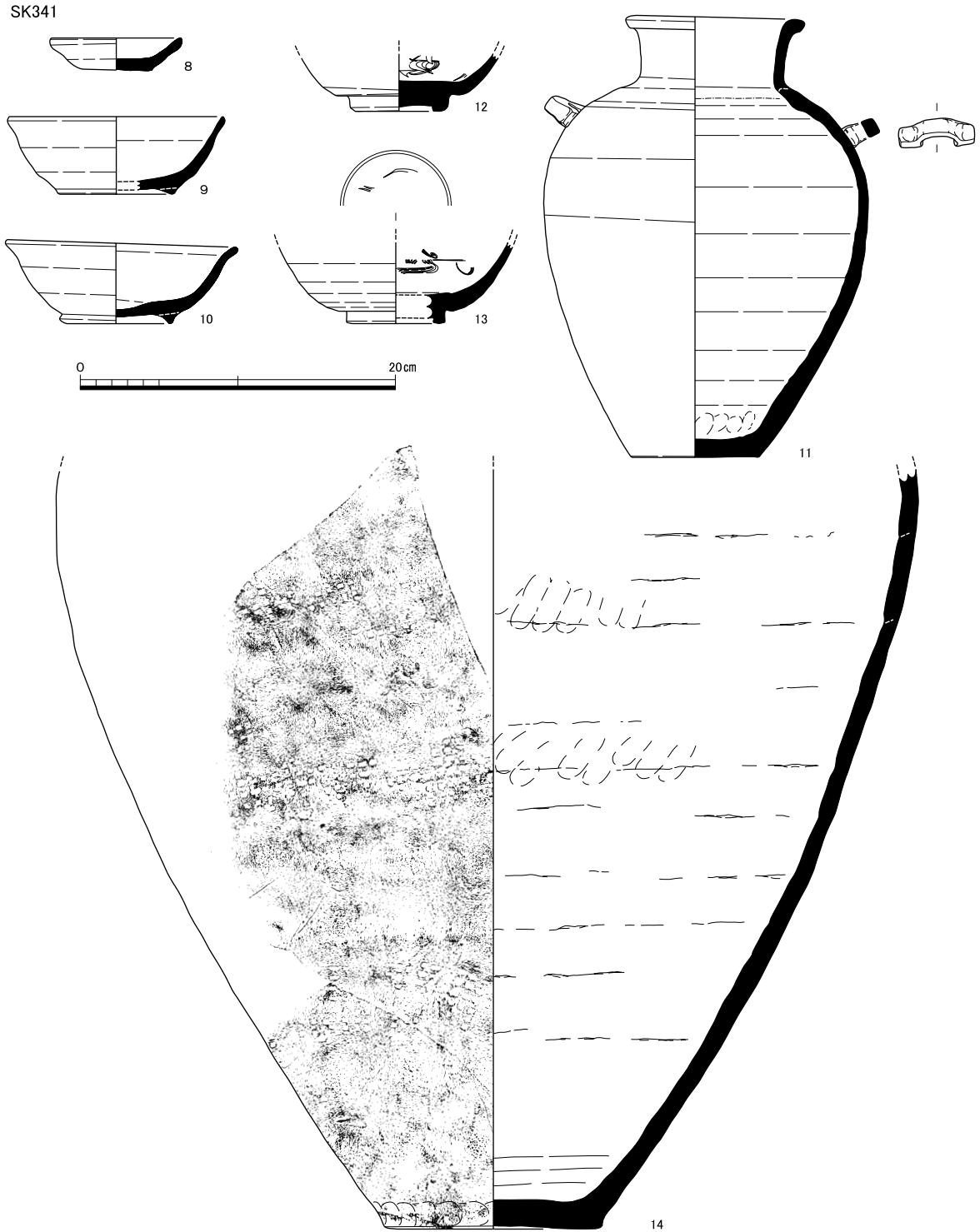


図19 出土土器実測図2（1：4）

灰釉系陶器は小皿（8）と椀（9・10）がある。13世紀前半の特徴を示す。白色土器は、白磁壺を模した双耳壺（11）がある。胴部外面のロクロ目はヘラで消される。輸入陶磁器は龍泉窯系の青磁椀（12・13）がある。いずれも内面に略化した劃花文を施文している。焼締陶器は常滑産の甕（14）がある。還元焰焼成により黄灰色を呈する。胴部のタタキは帯状に連続施文される。

SK220出土土器（図20、図版5） 土師器が出土した。土師器には皿N（15～17）がある。口径8.9cm・器高1.2cmの小型のもの、口径13.3～13.4cm・器高2.2～2.5cmの大型のものがある。口縁部外面のナデは2段と1段が認められる。京都VI期中段階の特徴をもつ。

SK222出土土器（図20、図版5） 土師器が出土した。土師器には皿N（18～20）がある。口径9.8cm・器高1.9cmの小型のもの、口径13.2cm・器高2.7cm、口径14.8cm・器高2.5cmの大型のものがある。口縁部外面のナデは2段と1段が認められる。京都VI期古段階から中段階の特徴をもつ。

SK211出土土器（図20、図版5） 土師器が出土した。土師器には皿Ac（21）、皿S（22）、皿N（23～27）がある。皿Nは口径8.2～9.2cm・器高1.3～1.8cmの小型のもの、口径12.8cm・器高2.3cmの大型のもの、口径14.5～15.2cm・器高2.8～3.5cmの特に大型のものがある。口縁部外面のナ

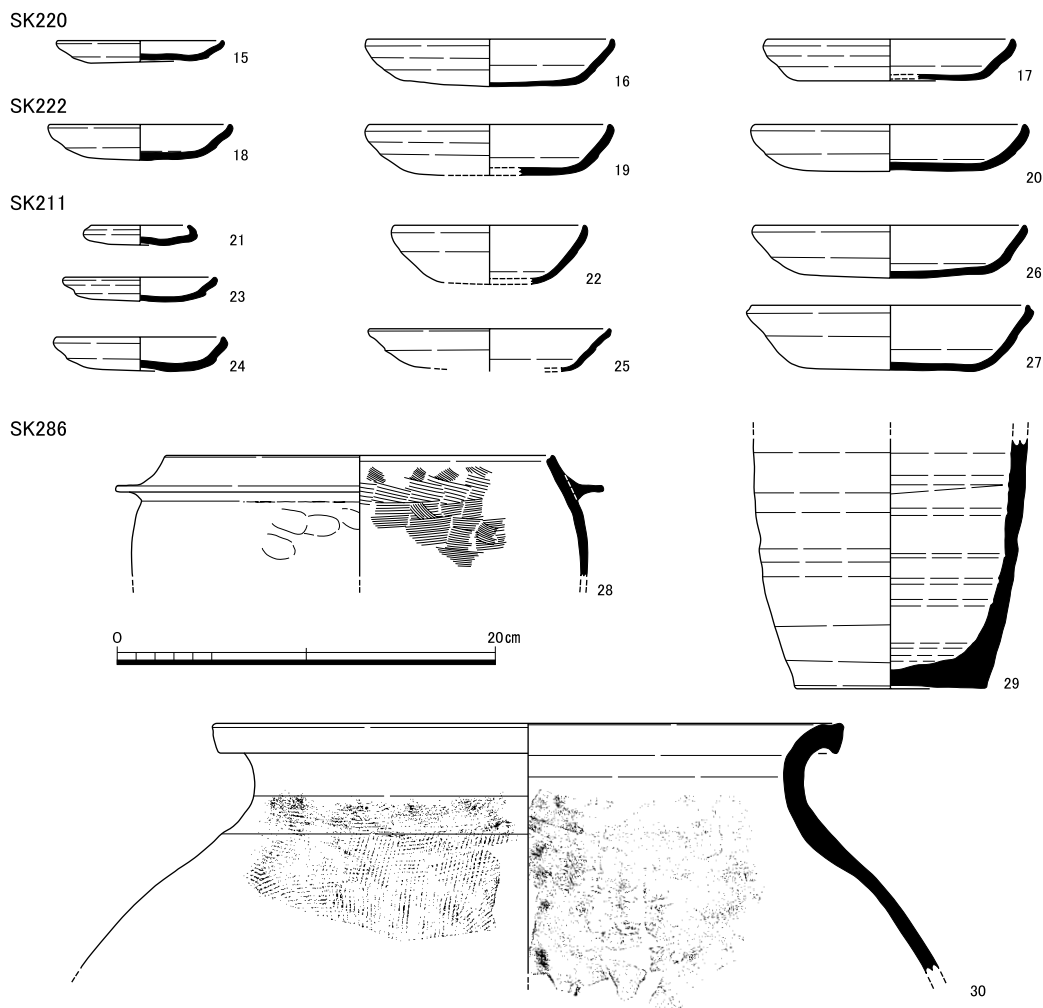


図20 出土土器実測図3（1：4）

デは1段である。京都Ⅵ期中段階の特徴をもつ。

SK286出土土器 (図20) 瓦器・須恵器が出土した。瓦器は羽釜(28)がある。内傾する口縁部をもつ。須恵器は壺(29)と甕(30)がある。

SK22出土土器 (図21、図版6) 土師器・須恵器・瓦器などの土器類が出土した。土師器皿は京都Ⅵ期新段階からⅦ期古段階の特徴をもつ。遺物の出土状況から、A・B面の2つのまとまりがある。両者には器種の組み合わせに違いがある。

A面土器群：土師器・須恵器・瓦器が出土した。土師器には皿Ac(31)、皿S(32～34)、皿N(35～53)がある。皿Acは口径5.2cm・器高1.25cmを測る。皿Sは口径8.0cm・器高1.7cmの小型のものと、口径11.1cm・器高2.6cmの大型のもの、口径12.9cm・器高3.0cmの特に大型のものがある。皿Nは口径8.0～8.9cm・器高1.3～1.7cmの小型のものと、口径12.1～12.6cm・器高2.0～2.4cmの大型のものがある。皿Nと皿Sの口縁部外面のナデは1段である。須恵器は片口をもつ東播系の挿鉢(58)がある。底部内面は摩滅している。瓦器には椀(54)と鍋(55～57)がある。椀は樟葉型であるが、口縁部の外反や高台の付け方に特徴がある。内面と口縁部外面に暗文を施す。鍋は小型のもの(55・56)と大型のもの(57)がある。いずれの個体もススの付着など使用痕を残す。

B面土器群：土師器・瓦器が出土した。土師器には皿がある。皿にはロクロ成形のもの(59～62)と、皿N(63～77)がある。ロクロ成形の皿は、底部外面糸切り未調整で、口径8.3～8.6cm・器高1.1～1.4cmを測る。皿Nは口径8.1～8.7cm・器高1.3～1.65cmの小型のものと、口径12.1～13.0cm・器高2.0～2.4cmの大型のものがある。瓦器は小椀(78)がある。内面に暗文を施す。

SK311出土土器 (図21) 常滑産の焼締陶器の甕(79)が出土している。

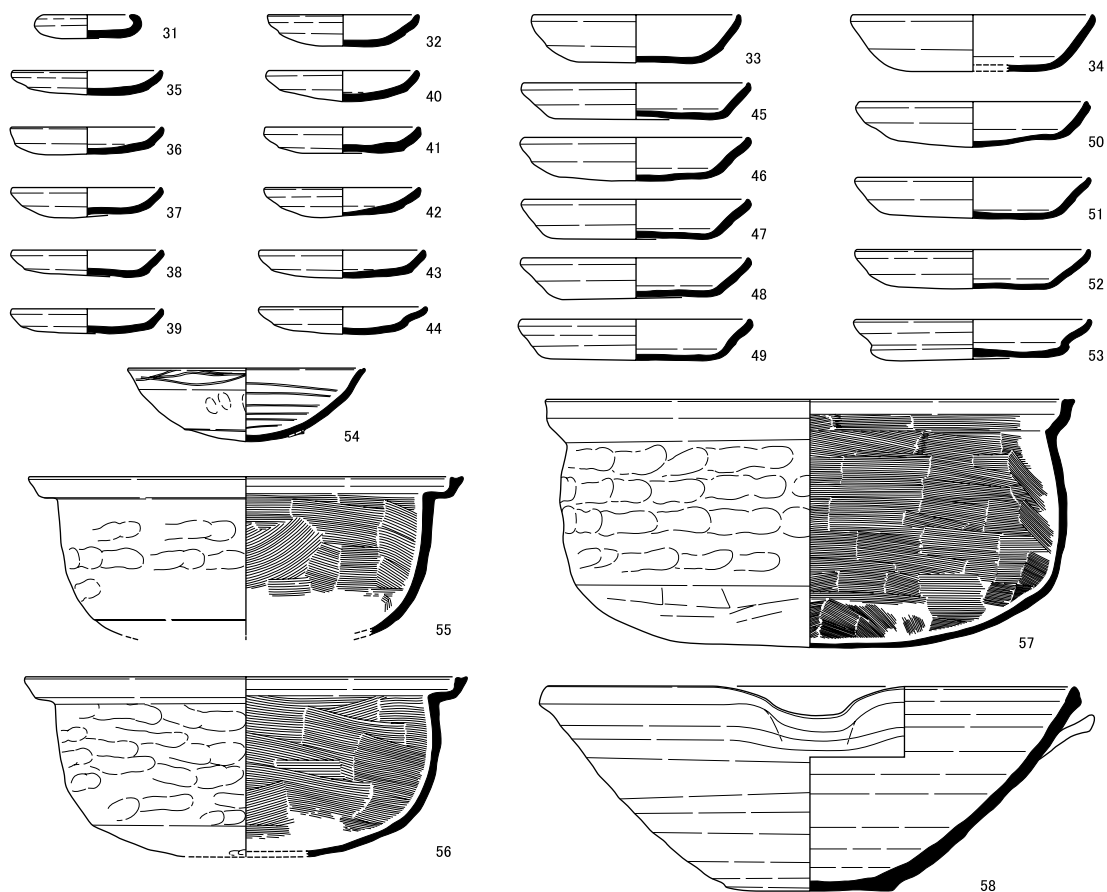
SK289出土土器 (図22) 土師器・瓦器・輸入陶磁器などの土器類が出土した。土師器皿は京都Ⅵ期新段階からⅦ期古段階の特徴をもつ。遺物の出土状況から、A・B面の2つのまとまりがある。両者には器種の組み合わせに違いがある。

A面土器群：土師器・瓦器・輸入陶磁器が出土した。土師器には皿Ac(80)、皿S(81・82)、皿N(83～95)がある。皿Acは口径6.0cm・器高1.0cmを測る。皿Sは口径10.8cm・器高3.0cmの小型のものと、口径13.0cm・器高3.0cmの大型のものがある。皿Nは口径8.0～8.8cm・器高1.3～1.6cmの小型のものと、口径12.1～12.6cm・器高2.0～2.5cmの大型のものがある。皿Sと皿Nの口縁部外面のナデは1段である。瓦器には和泉型椀(96)がある。椀は内面にヘラミガキ調整を施す。輸入陶磁器には天目茶椀(97)と龍泉窯系の青磁椀(98)がある。

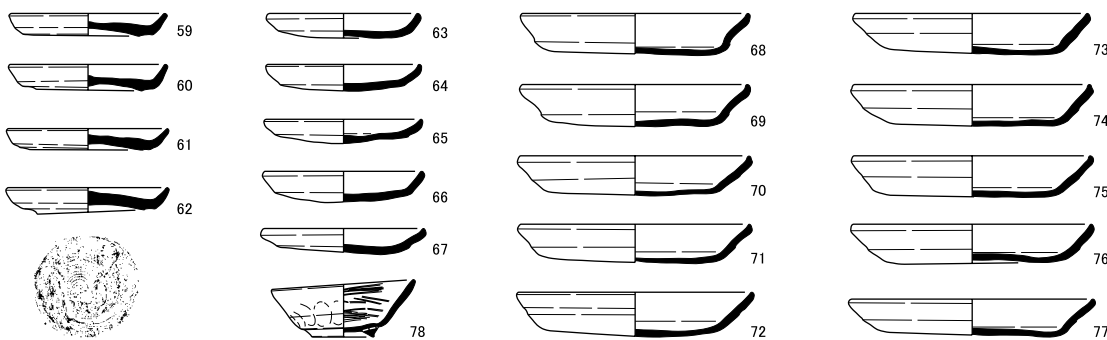
B面土器群：土師器が出土した。土師器には皿S(99～101)、皿N(102～118)がある。皿Sは口径7.8cm・器高1.3～1.4cmの小型のものと、口径10.8cm・器高3.4cmの大型のものがある。皿Nは口径8.0～8.8cm・器高1.3～1.7cmの小型のものと、口径11.9～12.4cm・器高2.1～2.4cmの大型のもの、口径14.0cm・器高2.6cmの特に大型のものがある。皿Sと皿Nの口縁部外面のナデは1段である。

SK265出土土器 (図22) 土師器・輸入陶磁器・焼締陶器などの土器類が出土した。土師器には皿N(119～122)がある。口径8.4～8.9cm・器高1.2～1.7cmの小型のものと、口径12.8～13.0cm・

SK22A面



SK22B面



SK311

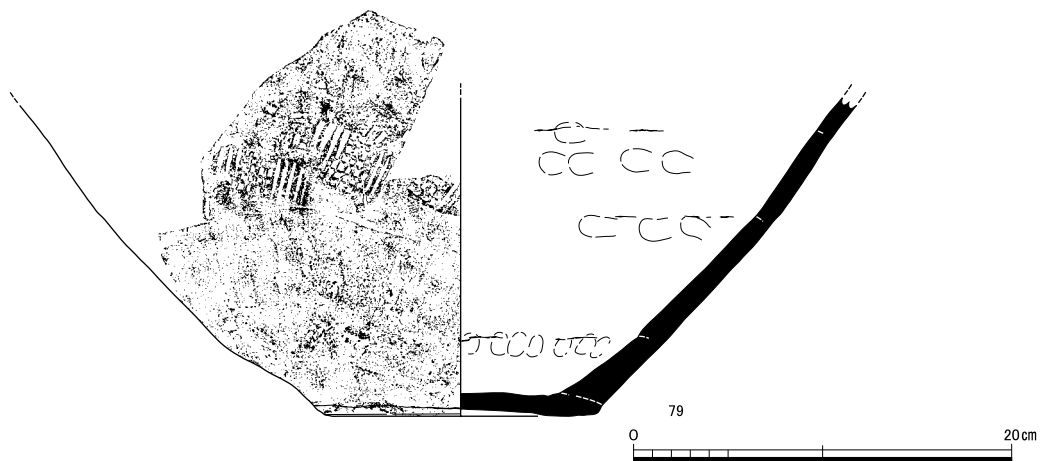


图21 出土土器实测图4 (1 : 4)

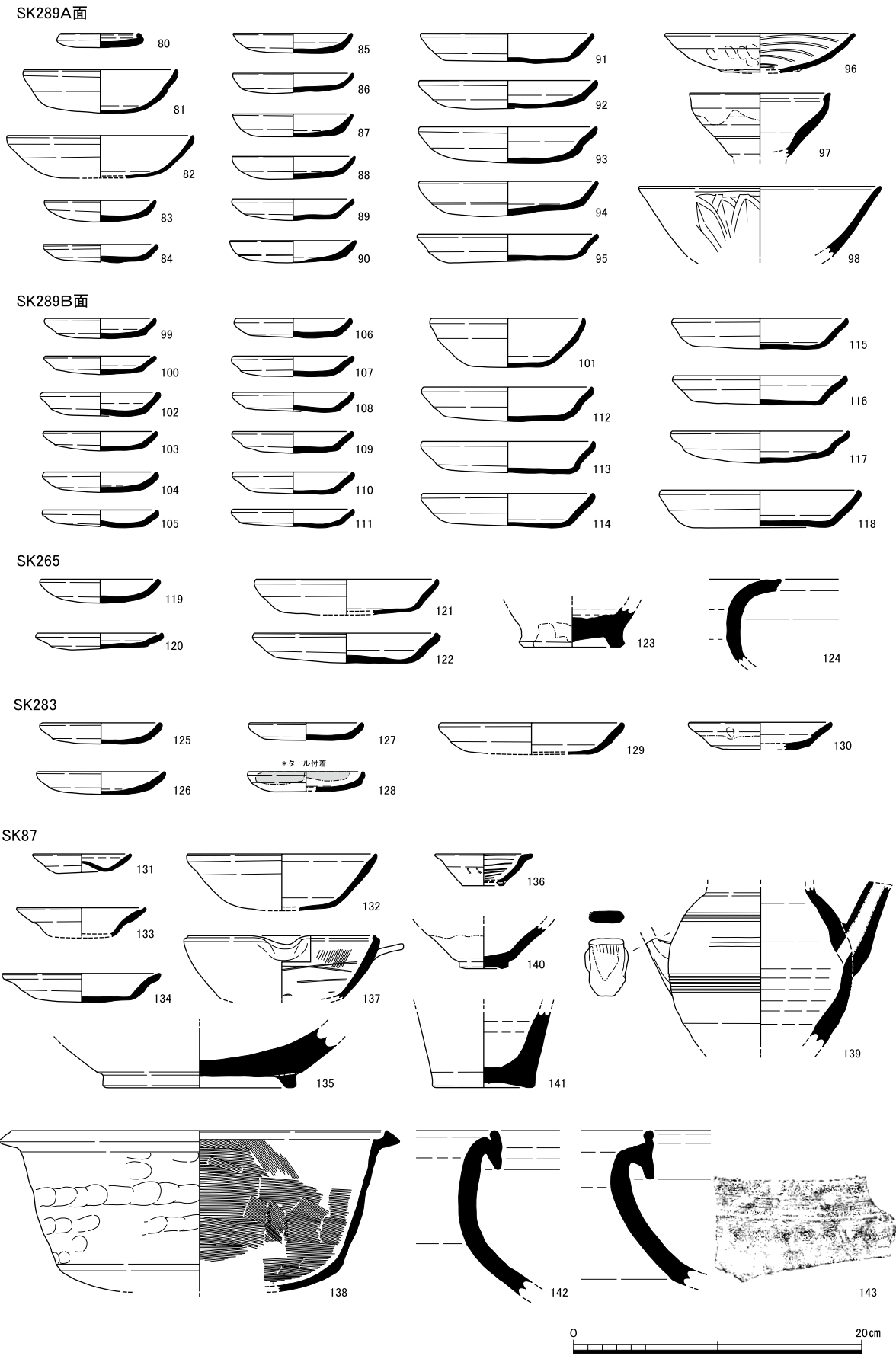


図22 出土土器実測図5 (1 : 4)

器高2.1cm～2.5cmの大型のものがある。京都Ⅶ期の特徴をもつ。輸入陶磁器は白磁壺の底部(123)がある。焼締陶器は常滑産の甕(124)が出土している。口縁部の先端は斜め上方に摘み上げられる。

SK283出土土器(図22) 土師器・輸入陶磁器などの土器類が出土した。土師器には皿S(125・126)、皿N(127～129)がある。皿Sは口径8.6～9.0cm・器高1.5～1.6cmのものがある。皿Nは口径8.1～8.2cm・器高1.2～1.4cmと、口径12.9cm・器高2.2cmの大型のものがある。皿Sと皿Nの口縁部外面のナデは1段である。京都Ⅶ期の特徴をもつ。輸入陶磁器には龍泉窯系の青磁皿(130)がある。

SK87出土土器(図22) 土師器・灰釉系陶器・瓦器・施釉陶器・輸入陶磁器・焼締陶器などの土器類が出土した。土師器には皿Sh(131)、皿S(132)、皿N(133・134)がある。皿Shは口径6.6cm・器高1.3cmを測る。皿Sは口径13.0cm・器高3.9cmを測る。皿Nは口径9.0cm前後・器高2.0cm前後の小型のものと、口径11.0cm・器高2.0cmの大型のものがある。京都Ⅷ期の特徴をもつ。灰釉系陶器は鉢の底部(135)がある。瓦器は小杯(136)・片口鉢(137)・鍋(138)がある。小杯は底部に貼付高台をもつ。鍋は胴部が外傾している。施釉陶器は水差し(139)がある。肩部と胴部に平行沈線を施し、薄く施釉する。輸入陶磁器は天目茶碗(140)と褐釉陶器壺(141)がある。焼締陶器は甕(142・143)が出土している。142は常滑産、143は産地不明である。いずれも口縁縁部幅は3cm前後を測る。

(3) 瓦類(図23、付表2)

144は巴文軒丸瓦である。右巻き巴文を配し、外区に珠文を巡らす。SK87から出土した。

(4) 土製品(図24、付表2)

145は犬形の土製品である。型作りで両側面を別に作り、それを貼り合わせて成形している。腹部下面から穿孔する。攪乱からの出土である。146は紡錘車である。径5.7cm・厚さ1.5cmで、中央に穿孔がある。第7層から出土した。

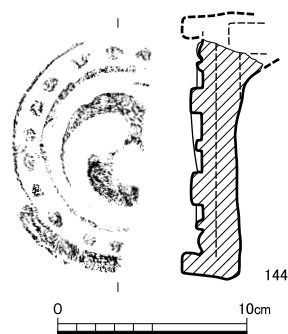


図23 出土瓦拓影及び実測図
(1:4)

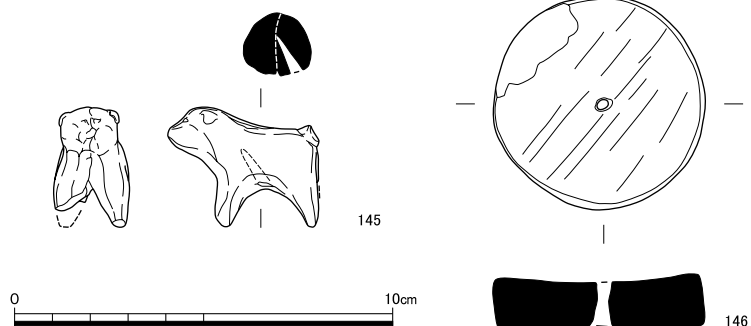


図24 出土土製品実測図(1:2)

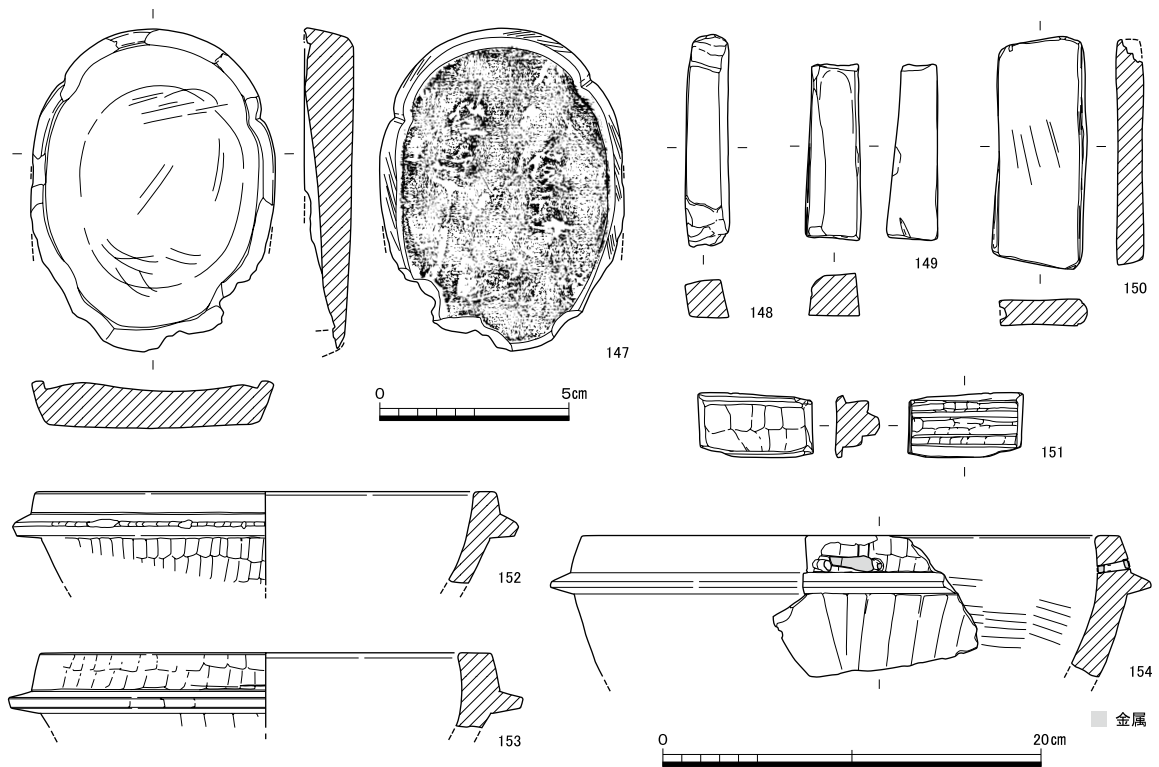


図25 出土石製品実測図（1：4、147のみ1：2）

（5）石製品（図25、図版7、付表3）

147は硯である。楕円形の石材の周縁に切り込みを入れ、花形に加工している。硯陰に「俊重」を刻書する。他には「死」、「□上了」と考えられる刻書をもつ²⁾。SK286から出土した。

148は滑石製の温石である。SK289から出土した。

149・150は砥石である。すべて黄褐色の粘板岩製である。149はPit172から、150は第7層から出土した。

151～154は石鍋である。すべて滑石製である。151は突帯部分の破片を加工し転用している。転用後の用途は不明。第3層から出土した。152は口径24.2cmを測る。破片を加工して温石に転用している。SK206から出土した。153は口径23.6cmを測る。口縁部と胴部外面に縦方向の鑿痕跡が認められる。SK22から出土した。154は口径28.4cmを測る。突帯直上に穿孔し、金属製の把手を取り付けている。破断面に転用時の加工痕を残す。SK206から出土した。

（6）金属製品（図26・27、図版7、付表4）

155は鉄製の飾金具である。細長い板状を呈し、一端は破損している。側面を折り曲げており、中央に目釘孔をもつ。SK341から出土した。

156～160は鉄釘である。いずれも断面方形を呈する。159・160は頭部が張り出している。156・159・160はSK289から、157はSK265から、158はSK341から出土した。

161は用途不明の鉄製品である。浅い皿状を呈し、中央に管が取り付けく。SK289から出土した。

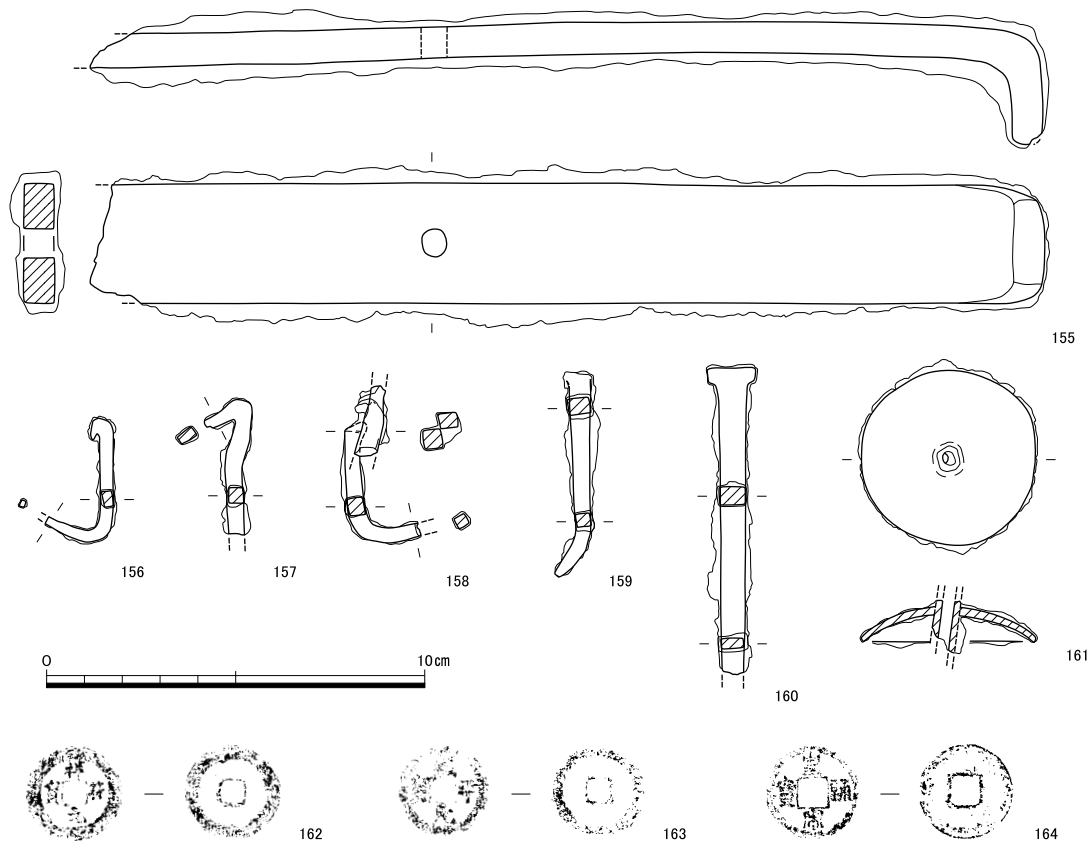


図26 出土金属製品実測図、銭貨拓影（1：2）

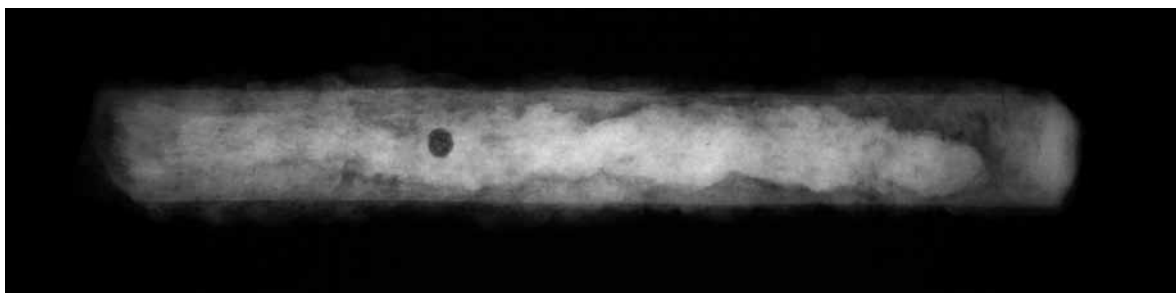


図27 飾金具（155）X線写真

162は祥符元寶である。SK289の床面から出土した。163は咸平元寶である。164は皇宋通寶である。163・164は第3層から出土した。

他に図化していないが、SK87から鉄滓が出土している。

（7）動植物遺体（図28～30、表3・4）

SK289の埋土から動植物遺体が出土した³⁾。

動物遺体は魚骨があり、そのうち、種類が判明したものには、タイ・ハモ属・カマスがある（図30）。他は小片のため、不明であった。

植物遺体は炭化したイネ・オオムギ・コムギの果実やゴマの種子、アカザ属・カヤツリクサ属など雑草の種子・果実がある。

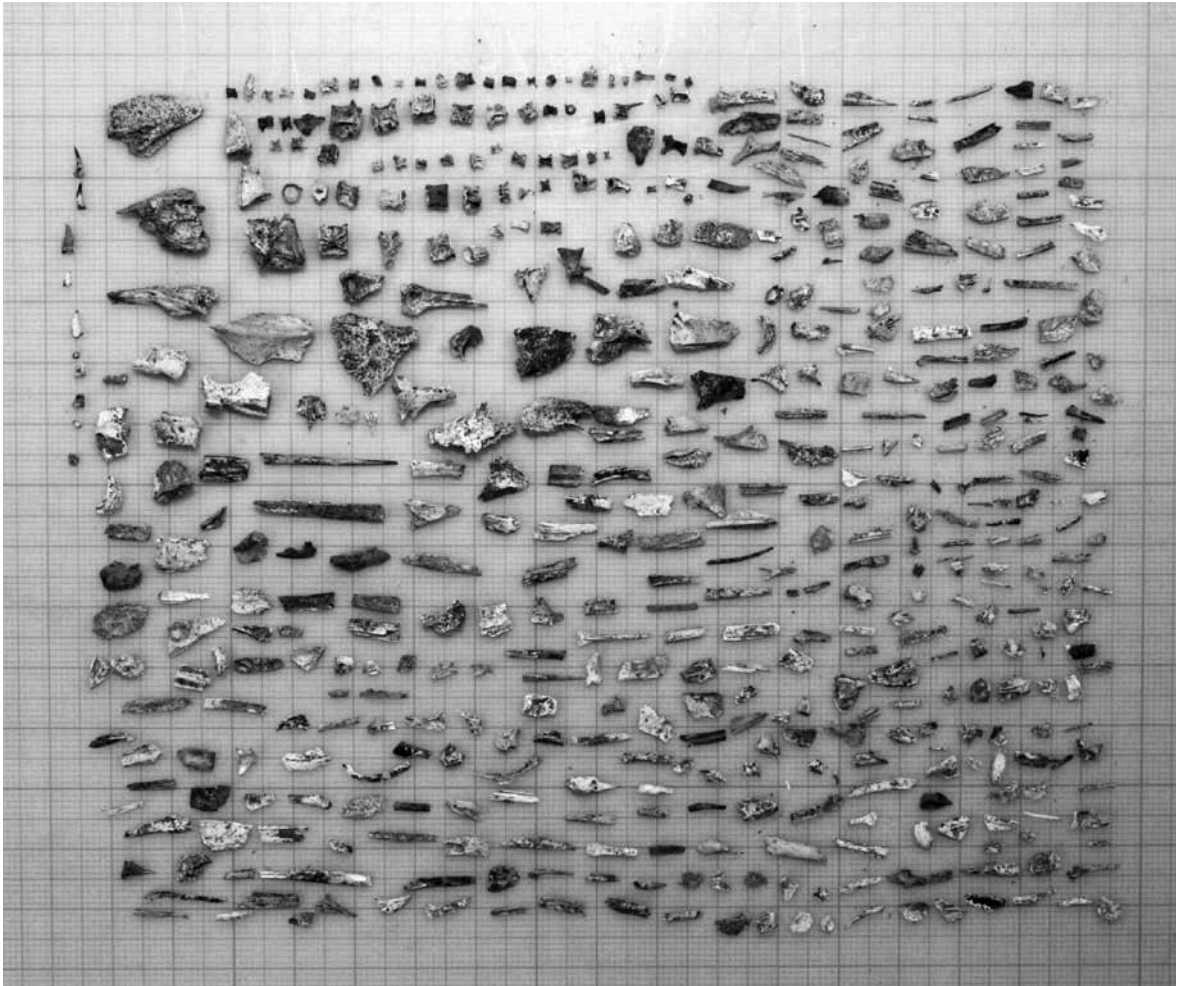


图28 SK289 - 4層出土骨

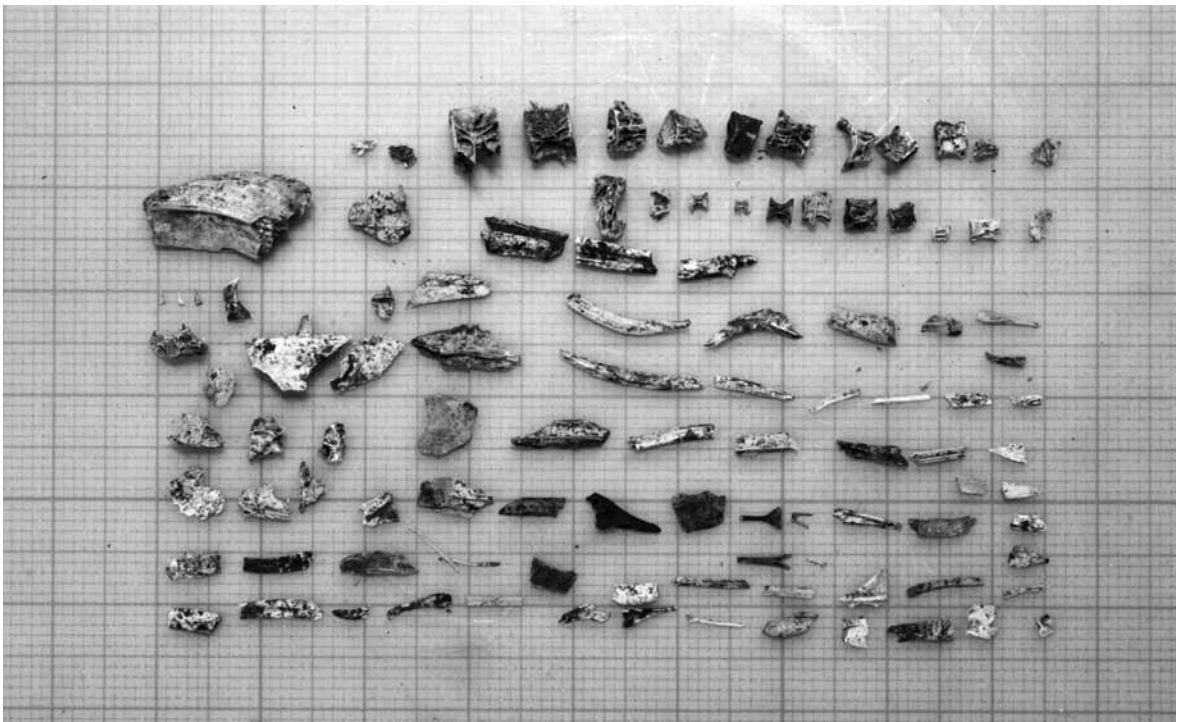
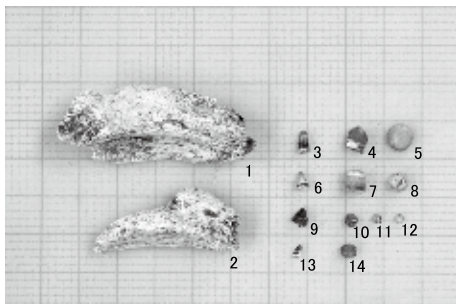


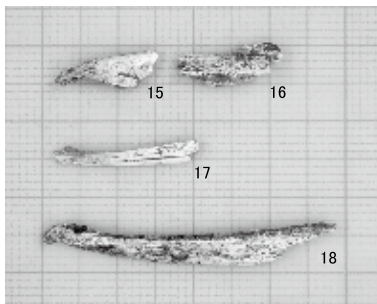
图29 SK289 - 8層出土骨

タイ(上後頭骨・歯)



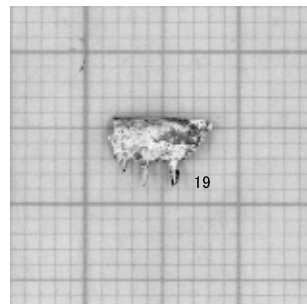
1・2:上後顎骨(8層)、
3~13:歯(4層)、14:歯(8層)

ハモ属(前上顎骨・歯骨)



15:前上顎骨(4層)、16:前上顎骨(8層)、
17:歯骨(4層)、18:歯骨(5層)

カマス(前上顎骨)



19:前上顎骨(4層)

図30 SK289出土同定骨(タイ・ハモ属・カマス)(縮尺不同)

表3 SK289出土動物遺体一覧表

	タイ	ハモ属	カマス
4層	歯:11	前上顎骨:1・歯骨:1	前上顎骨(歯):1
5層		歯骨:1	
8層	上後頭骨:2・歯:1	前上顎骨:1	

表4 SK289出土植物遺体一覧表

和名	部位	科名	生育場所	3層	8層
ブナ科? (炭化)	果実	ブナ	山地	1	
クワ属?	果実	クワ	山地・庭木・栽培	1	
サクラ属	核	バラ		18	1
タデ科(扁平形)	果実	タデ	水辺・湿地・道端	1	
ザクロソウ	種子	ザクロソウ	道端・畑	1	
スベリヒユ?	種子	スベリヒユ	畑・道端	1	
ツメクサ	種子	ナデシコ	道端	2	
アカザ属	種子	アカザ	道端・荒地	1	
ヤエムグラ属	果実	アカネ	山野・道端・湿地	3	
ゴマ(炭化)	種子	ゴマ	栽培	1	
トチカガミ科?	種子	トチカガミ	湖・沼(浮遊性)	15	4
オオムギ(炭化)	果実	イネ	栽培	68	13
イネ(炭化)	果実	イネ	栽培	4	1
イネ科 a (炭化) 1.3×0.6mm	果実	イネ	道端・野原	20	1
イネ科 b (炭化) 0.7×0.2mm	果実	イネ	道端・野原	1	
コムギ(炭化)	果実	イネ	栽培	18	6
麦類(炭化)	果実	イネ	栽培	66	6
カヤツリグサ属 a (三稜形) 1.5×0.8mm	果実	カヤツリグサ	水田・湿地・道端	3	
カヤツリグサ属 b (三稜形) 0.8×0.6mm	果実	カヤツリグサ	水田・湿地・道端	1	
ホタルイ属	果実	カヤツリグサ	水田・溝・湿地	1	
テンツキ属 a 0.5×0.3mm	果実	カヤツリグサ	湿地	623	9
テンツキ属 b 1×0.8mm	果実	カヤツリグサ	湿地	2	
テンツキ属 c 0.8×0.6mm	果実	カヤツリグサ	湿地	42	3
花・葉				花4・葉9	
不明炭化種実				6	7
炭化物				広葉樹が大多数	広葉樹が大多数

註

- 1) 遺物の編年や年代観は、以下の文献を参照した。

寺沢 薫・森岡秀人編『弥生土器の様式と編年 - 近畿編 II -』木耳社 1990年

平尾政幸「緑釉陶器・灰釉陶器・白色土器」『平安京提要』財団法人古代学協会・古代学研究所
1994年

尾上 実・森島康雄・近江俊秀「瓦器椀」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 真陽社
1995年

中野晴久「常滑・渥美」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 真陽社 1995年

小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人
京都市埋蔵文化財研究所 1996年

750頃	840頃	930頃	1010頃	1080~90頃	1180頃	1270頃	1360頃	1440頃	1500頃	1580~90頃	1660頃	1740年代頃	1820年代頃
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII	XIV
古中 新	古中 新	古中 新	古中 新	古中 新	古中 新	古中 新	古中 新	古中 新	古中 新	古中 新	古中 新	古中 新	古中 新

藤澤良祐『中世瀬戸窯の研究』高志書院 2008年

- 2) 刻書の解読には、竹本晃氏（大阪大谷大学講師）の協力をいただいた。
3) 動植物遺体の同定は当研究所が行い、魚骨については丸山真史氏（東海大学講師）の助言を受けた。

5. まとめ

今回の調査では主に中世の遺構を検出した。遺物や遺構の重複関係、配置などから、大きく3期に分けて説明する。

(1) 遺構の変遷 (図31)

1期 (12世後葉から14世紀前葉)

この時期の特徴的な遺構として、調査区の全域で検出した土坑群がある。これら土坑は、①長さ2m以上、幅1.5m未満の長方形土坑 (SK22・222)。②一辺1.5～1.0mの方形土坑 (SK20・211・220・283・286・289・341)。③径0.9～1.2m程度の円形土坑 (SK265) がある。土坑からは12世紀後葉から14世紀前葉の完形の土器類が出土しており、調査区の南側に古相 (12世紀後葉～13世紀前半) のものが分布する。

他の遺構としてSA516がある。この柱列の主軸方向は真北寄りであり、構成する柱穴掘形の平面形は方形であることを特徴とする。今回の調査において、平面方形を呈する柱穴は相対的に深い遺構面 (第3面) で検出した。時期不明の柱穴でも平面方形のものは、相対的に古い時期の所産である可能性がある。

2期 (14世紀中葉から後葉)

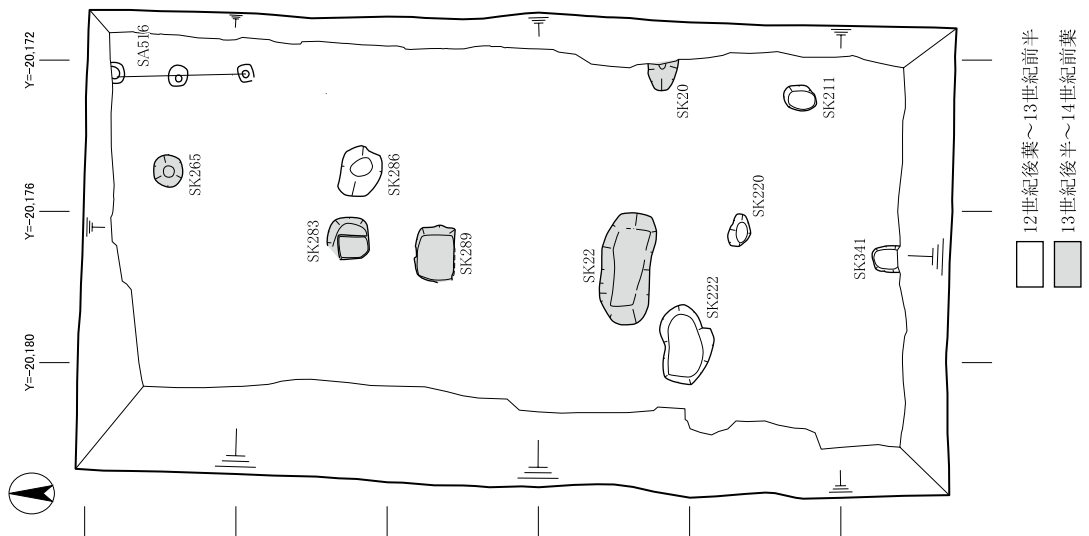
この時期の遺構は、掘立柱建物SB517やSK185・311、調査区中央の南北溝 (SD189)、南北柱列 (SA514・515) などの区画施設がある。また、第2・3面で検出した平面円形の柱穴の多くは、この時期の所産である可能性が高い。SB517は第3面で検出した遺構であるが、これら平面円形の小規模な柱穴によって構成されていることから、相対的に新しい遺構と判断した。

区画施設はいずれも真北より東に大きく傾き、柱穴は平面円形を基本としている。14世紀中葉以降、調査地には東西を画する土地境界が存在したと考えられる。今回の調査区は白河街区の南北基軸道路である今朱雀の推定軸線上に位置しており、調査地の東隣では東側溝と推定されている南北溝が検出されている¹⁾。復元された今朱雀の主軸方位は真北から0°30'から0°40'東であるが、今回検出した区画施設の方位は真北から4°から10°東と、今朱雀の方位から大きく東に偏る。今朱雀以来の土地境界・土地利用のありかたが、ある程度踏襲されていた可能性は高いものの、今回検出した区画施設と今朱雀との主軸方位との差から判断する限り、両者が直接関連するとは考えにくい²⁾。平面円形の柱穴の多くがこの時期に属する可能性が高いことを考えると、調査地は居住域の一画であり、区画施設はこれらの境界として機能したと推察する。

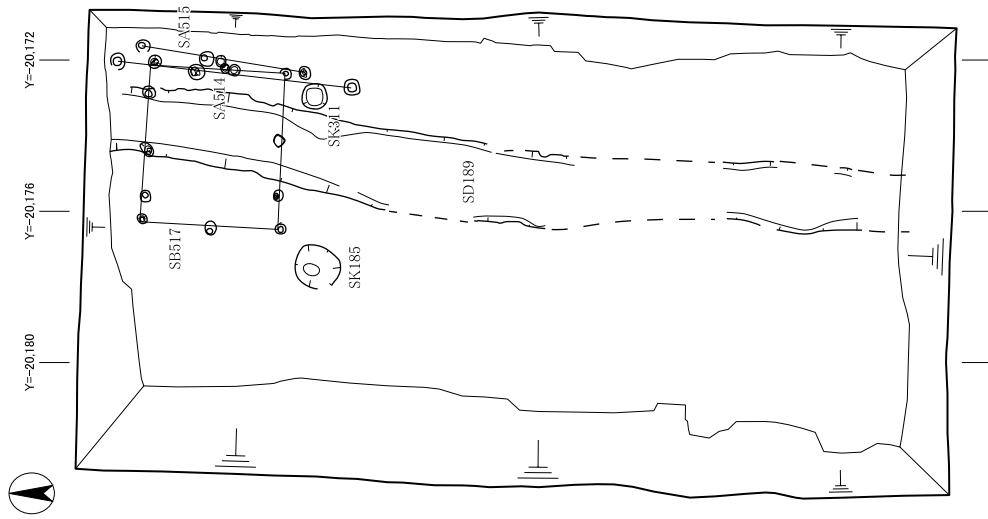
3期 (14世紀末から15世紀)

この時期の遺構は調査区中央の南北溝 (SD42) や、南北柱列 (SA511・512・513) などの区画施設と、大型土坑SK87を検出した。遺構・遺物ともに、2期と比べ減少傾向にある。

1期(12世紀後葉から14世紀前葉)



2期(14世紀中葉から後葉)



3期(14世紀末から15世紀)

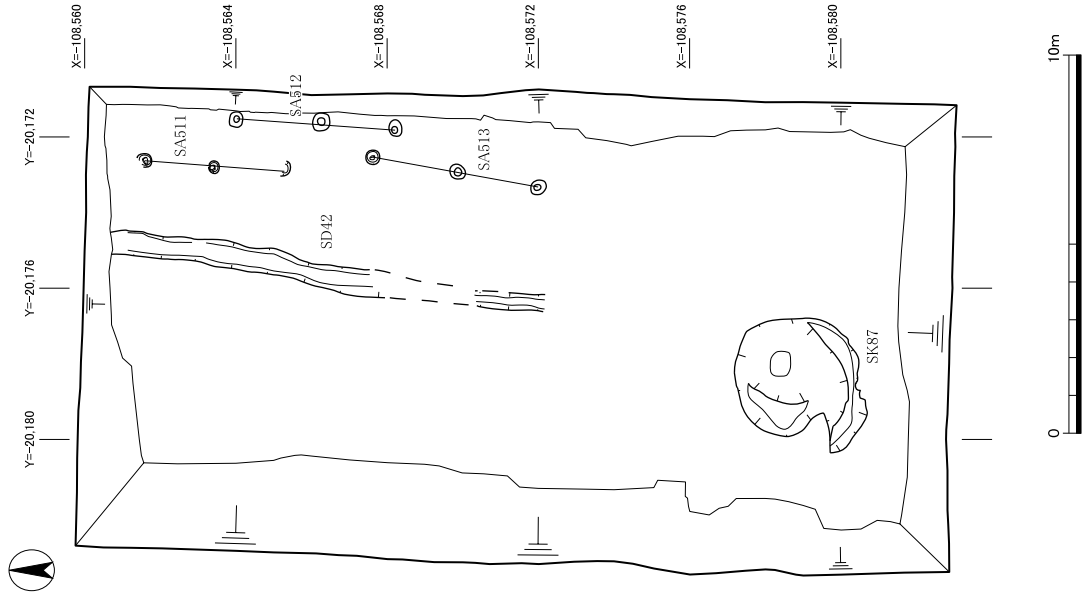


図31 主要遺構変遷図(1:200)

調査地の北側の調査4では、南北・東西方向の区画溝を複数確認している。これらの多くは14世紀から15世紀に廃絶しており、今回の調査区と同様の傾向が認められる³⁾。また調査地の西側の調査8では、中世の鑄造関連の遺構・遺物が多数確認されているが、SK87から出土した鉄滓は、調査地周辺で行われた鑄造活動に由来する可能性も考えられる⁴⁾。

(2) 土坑群の性格について

今回確認した土坑の中でも、長さ3m・幅1.3mの長方形土坑であるSK22は、①完形の土器類(土師器皿・瓦器鍋・須恵器播鉢)の埋納、②木棺の痕跡、③釘の出土を特徴とする。現代の攪乱により木棺の痕跡等は確認できなかったが、これに類する平面形・規模をもつSK222も完形の土器類を埋納している。同じ特徴を共有するSK22とSK222は共通の性格を有する遺構であった可能性が高い。

市内で検出された、類似する特徴をもつ遺構の事例として、平安京左京五条三坊五町の土坑36・38⁵⁾、左京五条三坊八町の墓A・C⁶⁾、左京五条三坊九町の土坑20⁷⁾、左京六条二坊六町のd-6土坑2⁸⁾、左京八条三坊七町土器集積土坑(P64)⁹⁾などがある。これら長方形土坑は墓として報告された遺構であり、今回検出されたSK22をはじめとする長方形土坑も、同様の土坑墓と推察する¹⁰⁾。

今回の調査区では、墓と考えられる長方形土坑に近接して、それよりもやや規模の小さい、同時期の方形・円形土坑群を検出した。方形土坑には、埋納された遺物の内容や出土状況がSK22と類似し、かつ床面に銭貨を埋置するSK289¹¹⁾や、完形の土師器皿を複数枚埋納するSK211・220、人名を刻書した硯を埋納する集石土坑SK286、土坑底面に甕の破片を敷き並べたSK341などがある。また円形土坑にも完形の土師器皿がまとまって出土したSK265などがある。これら第3面で確認した、主に完形の土器を埋納する土坑群は、調査区内では墓と考えた長方形土坑とともに成立した遺構であり、両者の密接な関連を想定できる。

今回検出したこれら鎌倉時代の土坑群との類例として、東本願寺前の烏丸通一帯(左京七条三坊から四坊)の調査事例がある。この調査では、鎌倉時代から室町時代にかけての土師器皿や須恵器鉢、瓦器羽釜等を多数埋納する土坑群が検出された。検出された土坑の平面形は、今回の調査と同様に円形・隅丸方形のものがあり、断面が皿形を呈するものもある。平面円形の土坑からは埋甕も確認された。報告ではこれら土坑群を直葬墓と推定しており、墓域の形成によって七条坊門小路と推定される道路が廃絶すると考えられている¹²⁾。

また、この東本願寺前古墓群は、平安京域内では特殊例ではなく、左京八条三坊付近・左京六条二坊六町(本国寺跡)付近・左京三条三坊十町(押小路殿跡)・左京五条三坊十五町などでも同様の事例があることが指摘されている。今回の調査で確認した方形・円形土坑がすべて墓であったかは今後も検討が必要であるが、これら他地域の事例から墓域に関係する土坑であったと推察する¹³⁾。

註

- 1) 浜崎一志「白河の条坊地割」『京都大学埋蔵文化財調査報告』Ⅳ 京都大学埋蔵文化財研究センター 1991年
濱崎一志『都市空間の変遷に関する歴史的考察』 京都大学 1994年
- 2) 調査地の地形は、北東から南西に向かって緩やかに傾斜している。流水等の機能を考えると、区画施設の方位はこうした地形環境に関係する可能性も考えられる。
- 3) 熊野神社境内菅領を聖護院に命じた『東寺文書』（『後鑑』 応永3年（1396）12月18日の条「前將軍被附近衛以南於聖護院」）は、熊野社の社領を「近衛以南大炊御門以北、今辻子以西至于河原」としており、調査地もこの熊野社の社領に含まれる可能性が高い。なお、応仁2年（1468）に熊野社は応仁の乱により被災し、焼亡している（濱崎一志『都市空間の変遷に関する歴史的考察』 京都大学 1994年）。
- 4) 五十川伸矢「中世白河の鑄造工房」『京都大学埋蔵文化財調査報告』Ⅳ 京都大学埋蔵文化財研究センター 1991年
- 5) 森島康雄・松尾史子・百瀬正恒・松本達也・橋本勝行「京都府」『中世墓資料集成 - 近畿編1 -』中世墓資料集成研究会 2006年
- 6) 前川佳代『平安京左京五条三坊八町』平安京跡研究調査報告第19輯 財団法人古代学協会 1997年
- 7) 網 伸也・柏田有香『平安京左京五条三坊九町跡・烏丸綾小路遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告2008-10 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2008年
- 8) 植山 茂『平安京左京六条二坊六町』平安京跡研究調査報告第17輯 財団法人古代学協会 1986年
- 9) 鈴木忠司編『平安京左京八条三坊七町 - 京都市下京区東塩小路町 -』財団法人京都文化財団 1988年
- 10) 柏田有香氏は、京都下京一帯に分布する13世紀中葉から14世紀後葉の土葬墓群に、多量の土師器皿と、完形の輸入陶磁器、鉄製短刀あるいは小刀を埋納するという特徴があることを指摘し、これらを「京都下京型土葬墓」と呼称している。今回検出した土坑も土師器皿の多量埋納という特徴を持つが、高級輸入陶磁器や金属製品が埋納されていない点は異なる。
柏田有香「中世京都、下京の墓」『まつりと吊い』第19回近畿ブロック埋蔵文化財研修会発表資料集 全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック会議 2013年
- 11) 類似する特徴をもつ遺構として、平安京左京五条二坊十一町跡の土坑墓2216がある。
近藤章子『平安京左京五条二坊十一町跡・烏丸綾小路遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告2016-8 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2017年
- 12) 大矢義明・玉村登志夫・永田信一・峰 巍『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅰ』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1979年
五十川伸矢「平安京・中世京都の葬地と墓制」『京都大学構内遺跡調査研究年報』昭和55年度 京都大学埋蔵文化財研究センター 1981年
- 13) 山田邦和氏は、上記したこれら古墓群を七条型墓地と類型化した。そして七条型墓地は、非在地系都市民が営む墓地であり、鎌倉時代から室町時代にかけて展開すると報告している。
山田邦和「平安京の墓制」『第5回 京都府埋蔵文化財研究会資料』京都府埋蔵文化財研究会・財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1997年

付表1 掲載土器類一覧表

No.	器種	器形	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	調整	備考
1	弥生土器	広口壺	SK206	24.8	-	-	10YR7/4にぶい黄橙	口縁端部:ヘラ描沈線→ユビオサエ、外面頸部:ハケ→ヘラ描直線文、外面胴部:ハケ→ミガキ、内面:ハケ→ナデ	
2	須恵器	杯B	SK252	-	-	9.0	2.5Y7/1灰白	内外面:ロクロナデ	
3	須恵器	円面硯	第3層	11.8	-	-	N6/0灰	内外面:ロクロナデ	
4	緑釉陶器	皿	第3層	-	-	7.7	N8/0灰白(胎土)、 2.5GY7/1明オリーブ 灰(釉)	内外面:ナデ→ミガキ	
5	灰釉陶器	小椀	SK341	9.8	3.6	4.5	2.5Y7/1灰白	内外面:ロクロナデ、外面底部:糸切り痕	
6	灰釉陶器	小椀	SK341	10.1	3.7	4.4	N7/0灰	内外面:ロクロナデ、外面底部:糸切り痕	
7	灰釉陶器	椀	SK341	11.2	4.3	4.8	N7/0灰	内外面:ロクロナデ、外面底部:糸切り痕	
8	灰釉系 陶器	小皿	SK341	8.2	2.1	4.5	N7/0灰	内外面:ロクロナデ、外面底部:糸切り痕	
9	灰釉系 陶器	椀	SK341	13.6	4.9	7.0	N7/0灰	内外面:ロクロナデ	スス附着
10	灰釉系 陶器	椀	SK341	14.4	5.3	6.5	N7/0灰	内外面:ロクロナデ、外面底部:糸切り痕	
11	白色土器	壺	SK341	9.9	28.1	5.0	7.5YR7/1明楊灰	外面:ロクロナデ→コテでロクロ目を消す、内面:ロクロナデ	白磁壺の写し
12	輸入青磁	椀	SK341	-	-	5.5	N6/0灰白(胎土)、 10GY7/1明緑灰(釉)	外面底部:削り出し高台	龍泉窯系
13	輸入青磁	椀	SK341	-	-	6.2	5Y7/2灰白(胎土)、 5Y6/3オリーブ黄(釉)	外面下部:回転ケズリ、外面底部:削り出し高台	龍泉窯系
14	焼締陶器	甕	SK341	-	-	13.8	2.5Y4/1黄灰	外面:ナデ→タタキ、内面:ユビオサエ→ナデ	常滑
15	土師器	皿N	SK220	8.9	1.2	-	10YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
16	土師器	皿N	SK220	13.3	2.5	-	10YR8/3浅黄橙	内外面:2段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
17	土師器	皿N	SK220	13.4	2.2	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:2段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
18	土師器	皿N	SK222	9.8	1.9	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
19	土師器	皿N	SK222	13.2	2.7	-	10YR7/3にぶい黄橙	内外面:2段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
20	土師器	皿N	SK222	14.8	2.5	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:2段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
21	土師器	皿Ac	SK211	6.0	1.1	-	10YR8/2灰白	内外面:ヨコナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
22	土師器	皿S	SK211	10.4	3.1	-	10YR8/2灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
23	土師器	皿N	SK211	8.2	1.3	-	7.5YR7/3にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
24	土師器	皿N	SK211	9.2	1.8	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
25	土師器	皿N	SK211	12.8	2.3	-	10YR7/4にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
26	土師器	皿N	SK211	14.5	2.8	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
27	土師器	皿N	SK211	15.2	3.5	-	10YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
28	瓦器	羽釜	SK286	20.4	-	-	10YR7/2にぶい黄橙	外面口縁部:ナデ、外面胴部:ユビオサエ、内面:ハケ	
29	須恵器	壺	SK286	-	-	9.9	2.5Y5/1黄灰	外面胴部:ロクロナデ、外面下部:回転ヘラケズリ、内面:ロクロナデ	
30	須恵器	甕	SK286	33.0	-	-	N5/0灰	外面口縁部:ロクロナデ、外面胴部:タタキ、内面:当て具痕	
31	土師器	皿Ac	SK22(A)	5.2	1.3	-	10YR8/1灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
32	土師器	皿S	SK22(A)	8.0	1.7	-	10YR8/1灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
33	土師器	皿S	SK22(A)	11.1	2.6	-	10YR8/1灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
34	土師器	皿S	SK22(A)	12.9	3.0	-	10YR8/2灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
35	土師器	皿N	SK22(A)	8.0	1.3	-	7.5YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
36	土師器	皿N	SK22(A)	8.1	1.5	-	10YR7/2にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
37	土師器	皿N	SK22(A)	8.1	1.6	-	10YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
38	土師器	皿N	SK22(A)	8.1	1.5	-	10YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
39	土師器	皿N	SK22(A)	8.1	1.4	-	10YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
40	土師器	皿N	SK22(A)	8.1	1.7	-	7.5YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
41	土師器	皿N	SK22(A)	8.3	1.4	-	7.5YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
42	土師器	皿N	SK22(A)	8.3	1.6	-	10YR7/3にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
43	土師器	皿N	SK22(A)	8.8	1.5	-	10YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ・ 成形台痕	
44	土師器	皿N	SK22(A)	8.9	1.5	-	7.5YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
45	土師器	皿N	SK22(A)	12.1	2.0	-	10YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
46	土師器	皿N	SK22(A)	12.2	2.3	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
47	土師器	皿N	SK22(A)	12.2	2.1	-	2.5Y7/1灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
48	土師器	皿N	SK22(A)	12.2	2.2	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ・ 工具痕	スス附着
49	土師器	皿N	SK22(A)	12.4	2.2	-	10YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ・ 成形台痕	
50	土師器	皿N	SK22(A)	12.4	2.4	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ・ 成形台痕	
51	土師器	皿N	SK22(A)	12.5	2.2	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	

No.	器種	器形	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	調整	備考
52	土師器	皿N	SK22(A)	12.5	2.1	-	5YR7/6橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
53	土師器	皿N	SK22(A)	12.6	2.2	-	5YR7/6橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
54	瓦器	椀	SK22(A)	12.6	3.9	6.3	N4/0灰	外面口縁部:ヨコナデ→ミガキ、外面下部:ユビオサエ、 内面:ミガキ、内面底部:暗文	樟葉産
55	瓦器	鍋	SK22(A)	23.0	8.4	-	N4/0灰	外面胴部:ユビオサエ、内面:ハケ	スス付着
56	瓦器	鍋	SK22(A)	23.4	9.5	-	2.5Y7/1灰白	外面胴部:ユビオサエ、外面底部:ナデ、内面:ハケ	スス付着
57	瓦器	鍋	SK22(A)	28.0	13.2	-	N2/0黒	外面胴部:ユビオサエ、外面底部:ケズリ、内面:ハケ	スス付着
58	須恵器	播鉢	SK22(A)	28.6	10.9	8.9	N5/0灰	内外面:ロクロナデ、外面底部:糸切り痕	東播系、内面 底面:磨滅
59	土師器	皿	SK22(B)	8.3	1.2	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:回転糸切り 痕(未調整)	
60	土師器	皿	SK22(B)	8.4	1.4	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:回転糸切り 痕(未調整)	
61	土師器	皿	SK22(B)	8.5	1.1	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:回転糸切り 痕(未調整)	
62	土師器	皿	SK22(B)	8.6	1.4	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:回転糸切り 痕(未調整)	
63	土師器	皿N	SK22(B)	8.1	1.3	-	10YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
64	土師器	皿N	SK22(B)	8.2	1.4	-	5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
65	土師器	皿N	SK22(B)	8.3	1.3	-	10YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
66	土師器	皿N	SK22(B)	8.5	1.7	-	10YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
67	土師器	皿N	SK22(B)	8.7	1.4	-	5YR7/6橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
68	土師器	皿N	SK22(B)	12.1	2.2	-	10YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
69	土師器	皿N	SK22(B)	12.2	2.2	-	10YR7/3にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ・ 成形台痕	
70	土師器	皿N	SK22(B)	12.3	2.1	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
71	土師器	皿N	SK22(B)	12.3	2.1	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
72	土師器	皿N	SK22(B)	12.5	2.4	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ・ 工具痕	
73	土師器	皿N	SK22(B)	12.5	2.2	-	10YR7/3にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
74	土師器	皿N	SK22(B)	12.7	2.2	-	10YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
75	土師器	皿N	SK22(B)	12.7	2.2	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
76	土師器	皿N	SK22(B)	12.8	2.1	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
77	土師器	皿N	SK22(B)	13.0	2.0	-	7.5YR7/3にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ・ 成形台痕	
78	瓦器	小椀	SK22(B)	7.5	3.1	3.2	N3/0暗灰	外面口縁部:ヨコナデ、外面下部:ユビオサエ、内面:ミガキ、 内面底部:暗文	
79	焼締陶器	甕	SK311	-	-	14.4	5YR5/4にぶい赤褐	外面:ナデ→タタキ、内面:ユビオサエ	常滑
80	土師器	皿Ac	SK289(A)	6.0	1.0	-	10Y8/2灰白	内外面:ヨコナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
81	土師器	皿S	SK289(A)	10.8	3.0	-	10YR8/2灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ナデ	
82	土師器	皿S	SK289(A)	13.0	3.0	-	10YR8/2灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ナデ	
83	土師器	皿N	SK289(A)	7.8	1.5	-	10YR7/4にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ナデ	
84	土師器	皿N	SK289(A)	8.0	1.3	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
85	土師器	皿N	SK289(A)	8.3	1.4	-	10YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
86	土師器	皿N	SK289(A)	8.4	1.4	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
87	土師器	皿N	SK289(A)	8.4	1.6	-	10YR6/3にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
88	土師器	皿N	SK289(A)	8.6	1.6	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ナデ	
89	土師器	皿N	SK289(A)	8.5	1.5	-	10YR7/3にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
90	土師器	皿N	SK289(A)	8.8	1.5	-	10YR7/3にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:成形台痕	
91	土師器	皿N	SK289(A)	12.1	2.1	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
92	土師器	皿N	SK289(A)	12.4	2.0	-	10YR7/4にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
93	土師器	皿N	SK289(A)	12.4	2.5	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
94	土師器	皿N	SK289(A)	12.5	2.4	-	10YR7/4にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
95	土師器	皿N	SK289(A)	12.6	2.0	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
96	瓦器	椀	SK289(A)	12.8	-	-	N5/0灰	内面:ナデ→ミガキ、外面口縁部:ナデ、外面胴部:ユビオ サエ	和泉型
97	輸入陶器	天目 茶椀	SK289(A)	9.8	-	-	7.5YR6/2灰褐(胎土)、 2.5Y2/1黒(釉)	内外面:ナデ、外面下部:回転ケズリ	
98	輸入青磁	椀	SK289(A)	16.7	-	-	N7/0灰白(胎土)、 5G7/1明緑灰(釉)		龍泉窯系
99	土師器	皿S	SK289(B)	7.8	1.4	-	10YR8/2灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
100	土師器	皿S	SK289(B)	7.8	1.3	-	10YR8/2灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
101	土師器	皿S	SK289(B)	10.8	3.4	-	10YR8/2灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
102	土師器	皿N	SK289(B)	8.4	1.7	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ナデ	

No.	器種	器形	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	調整	備考
103	土師器	ⅢN	SK289(B)	8.0	1.4	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
104	土師器	ⅢN	SK289(B)	8.0	1.4	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
105	土師器	ⅢN	SK289(B)	8.1	1.3	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
106	土師器	ⅢN	SK289(B)	8.2	1.4	-	7.5YR7/3にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ、 成形台痕	
107	土師器	ⅢN	SK289(B)	8.5	1.4	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
108	土師器	ⅢN	SK289(B)	8.5	1.4	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
109	土師器	ⅢN	SK289(B)	8.5	1.5	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
110	土師器	ⅢN	SK289(B)	8.5	1.6	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
111	土師器	ⅢN	SK289(B)	8.6	1.3	-	10YR7/3にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
112	土師器	ⅢN	SK289(B)	11.9	2.4	-	10YR7/4にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
113	土師器	ⅢN	SK289(B)	12.1	2.3	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ、 成形台痕	
114	土師器	ⅢN	SK289(B)	12.1	2.4	-	10YR7/3にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
115	土師器	ⅢN	SK289(B)	12.2	2.2	-	7.5YR8/4浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
116	土師器	ⅢN	SK289(B)	12.2	2.1	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
117	土師器	ⅢN	SK289(B)	12.4	2.3	-	7.5YR7/3にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
118	土師器	ⅢN	SK289(B)	14.0	2.6	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
119	土師器	ⅢN	SK265	8.4	1.7	-	10YR7/3にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
120	土師器	ⅢN	SK265	8.9	1.2	-	10YR7/3にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
121	土師器	ⅢN	SK265	12.8	2.5	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
122	土師器	ⅢN	SK265	13.0	2.1	-	10YR7/4にぶい黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
123	輸入自磁	壺	SK265	-	-	6.8	N7/0灰白(胎土)、 10Y7/2灰白(釉)	内外面:ロクロナデ、外面底部:削り出し高台	
124	焼締陶器	甗	SK265	-	-	-	2.5Y5/2暗灰黄	内外面:ナデ	常滑
125	土師器	ⅢS	SK283	8.6	1.5	-	10YR8/2灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
126	土師器	ⅢS	SK283	9.0	1.6	-	10YR8/2灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
127	土師器	ⅢN	SK283	8.1	1.2	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
128	土師器	ⅢN	SK283	8.2	1.4	-	10YR8/2灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	タール付着
129	土師器	ⅢN	SK283	12.9	2.2	-	7.5YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
130	輸入青磁	皿	SK283	9.8	-	-	N7/0灰白(胎土)、 7.5Y6/1灰(釉)	内外面:ナデ、外面下部:回転ケズリ	龍泉窯系
131	土師器	ⅢSh	SK87	6.6	1.3	-	10YR8/2灰白	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
132	土師器	ⅢS	SK87	13.0	3.9	-	10YR8/3浅黄橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ナデ	
133	土師器	ⅢN	SK87	9.0	2.0	-	5YR6/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
134	土師器	ⅢN	SK87	11.0	2.0	-	7.5YR7/4にぶい橙	内外面:1段ナデ、内面底部:ナデ、外面底部:ユビオサエ	
135	灰釉系 陶器	鉢	SK87	-	-	13.0	5Y7/1灰白	外面底部:ケズリ	
136	瓦器	小杯	SK87	6.7	2.2	2.7	N3/0灰白	内面:ヨコナデ→ミガキ、外面:ナデ	
137	瓦器	片口鉢	SK87	13.0	4.4	-	2.5Y8/1灰白	内面:ハケ→ミガキ、外面:ナデ	スス付着
138	瓦器	鍋	SK87	26.0	11.2	-	10YR7/2にぶい黄橙	外面胴部:ユビオサエ、外面底部:ナデ、内面:ハケ	スス付着
139	施釉陶器	水差	SK87	-	-	-	2.5Y8/3淡黄(胎土)、 2.5Y8/1灰白(釉)	内外面:ナデ	瀬戸
140	輸入陶器	天目 茶椀	SK87	-	-	3.4	7.5YR6/4にぶい橙 (胎土)、 10YR3/2黒褐(釉)	外面下部:回転ケズリ、外面底部:削り出し高台	
141	輸入陶器	壺	SK87	-	-	6.8	10YR6/2灰黄褐色 (胎土)、 10YR4/2灰黄褐(釉)	外面:ケズリ、内面:ロクロナデ	
142	焼締陶器	甗	SK87	-	-	-	7.5YR5/2灰褐	内外面:ナデ	常滑
143	焼締陶器	甗	SK87	-	-	-	N5/0灰	外面胴部:タタキ、内外面:ナデ	

付表2 掲載瓦・土製品一覧表

No.	種類	名称	遺構名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	備考
144	瓦	巴文軒丸瓦	SK87	-	-	-	N4/0灰	右巻き巴文。外区に珠文。瓦当裏面ナデ
145	土製品	犬形土製品	攪乱	4.0	2.0	3.2	7.5YR8/2灰白	型作り成形
146	土製品	紡錘車	第7層	5.7	5.6	1.5	7.5YR6/3にぶい褐	

付表3 掲載石製品一覧表

No.	種類	名称	遺構名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考
147	石製品	硯	SK286	8.6	6.4	1.3	硯陰に刻書「俊重」、「死」?、「□上了」?
148	石製品	温石	SK289	11.3	2.3	2.0	滑石製
149	石製品	砥石	Pit172	9.4	3.0	2.7	粘板岩製
150	石製品	砥石	第7層	12.3	5.1	1.5	粘板岩製
151	石製品	石鍋	第3層	6.1	3.4	2.5	滑石製、用途不明
152	石製品	石鍋	SK206	口径 24.2	-	-	滑石製、温石に転用
153	石製品	石鍋	SK22	口径 23.6	-	-	滑石製
154	石製品	石鍋	SK206	口径 28.4	-	-	滑石製、鉄製の把手痕

付表4 掲載金属製品一覧表

No.	種類	名称	遺構名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考
155	鉄製品	飾金具	SK341	25.4	4.3	0.8	中央に目釘孔
156	鉄製品	釘	SK289	3.4	1.9	0.5	
157	鉄製品	釘	SK265	3.6	1.3	0.6	
158	鉄製品	釘	SK341	4.2	1.3	1.8	2本融着
159	鉄製品	釘	SK289	5.4	1.2	0.7	
160	鉄製品	釘	SK289	8.2	1.4	0.5	
161	鉄製品	不明	SK289	5.2	4.8	0.2	
162	銭貨	祥符元寶	SK289	2.6	2.6	-	
163	銭貨	咸平元寶	第3層	2.5	2.5	-	
164	銭貨	皇宋通寶	第3層	2.6	3.0	-	

圖 版



1 第1面全景（北から）



2 SA513（北から）



3 SA513 Pit66（西から）



4 SA513 Pit41（西から）



1 第2面全景（北から）



2 SD189（北から）



3 SK87（西から）



1 第3面全景（北から）



2 SK22 A面土器出土状況（東から）



3 SK22 B面土器出土状況（東から）



1 SK265 土器出土状況 (東から)



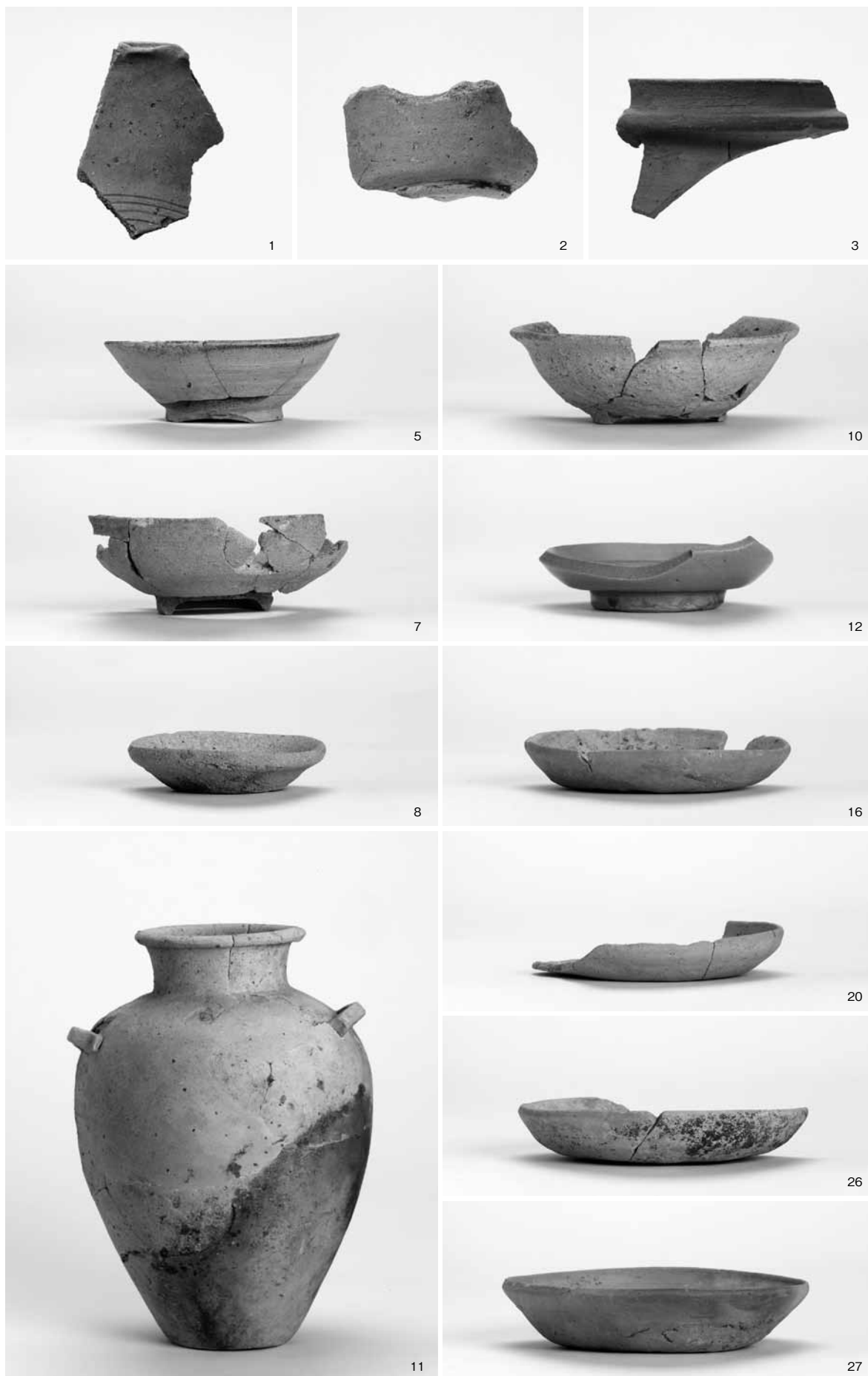
2 SK341 甕出土状況 (北から)



3 SK289 A面土器出土状況 (東から)



4 SK286 半裁状況 (東から)

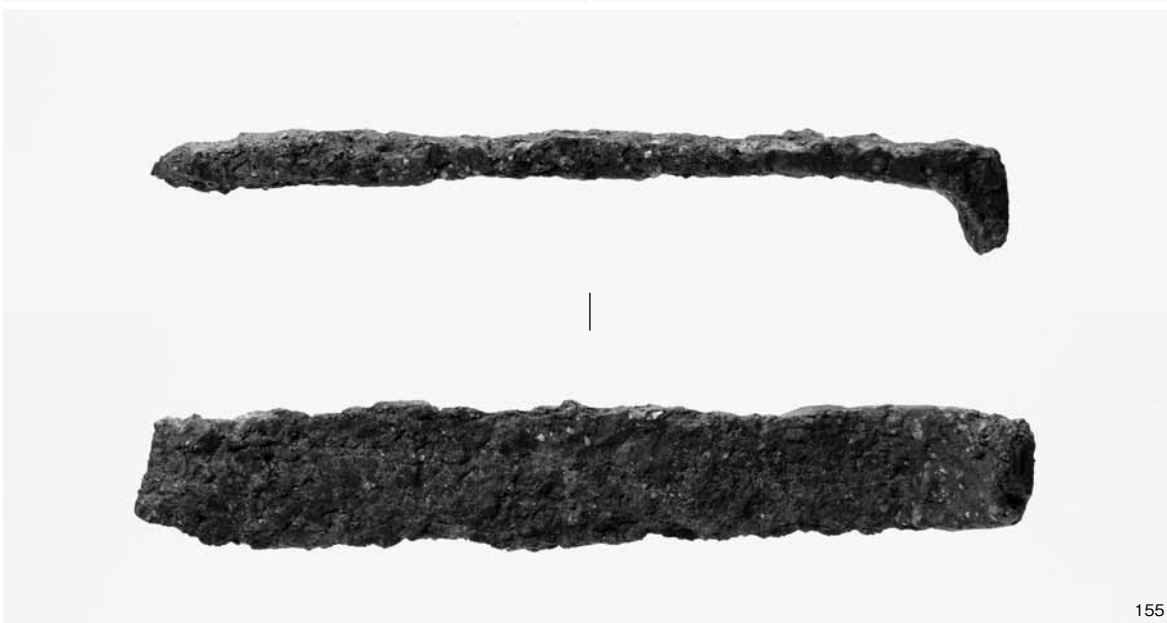
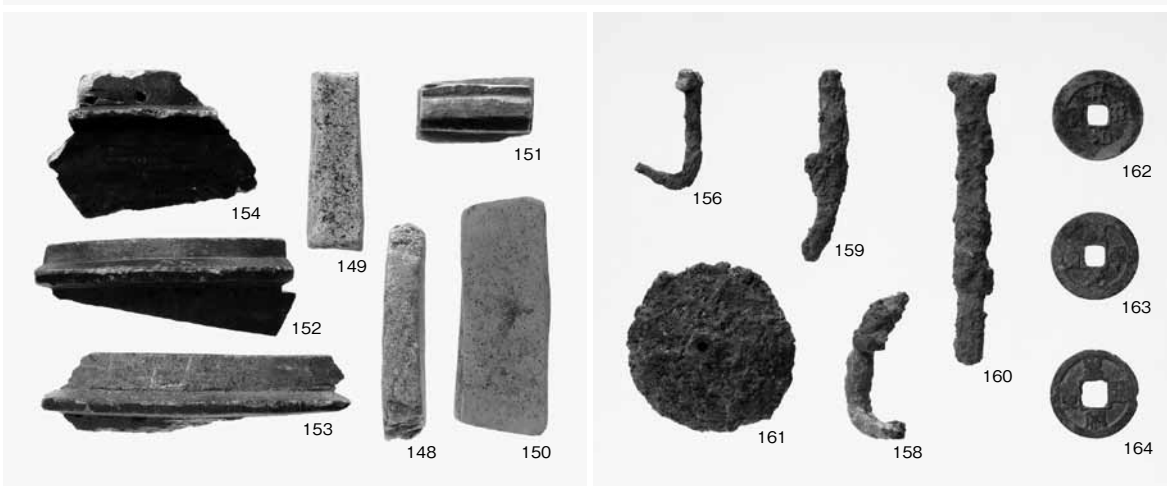


出土土器 1





147



155

報 告 書 抄 録

ふりがな	しらかわがいくあと・よしだかみおおじちょういせき							
書名	白河街区跡・吉田上大路町遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2016-12							
編著者名	中谷正和							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2017年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しらかわがいくあと 白河街区跡	きょうとしききょうく 京都市左京区 よしだこのえちょう 吉田近衛町	26100	417	35度 01分 16秒	135度 46分 44秒	2016年10月 6日～2016 年12月12日	287.5m ²	建物建設 工事
よしだかみおおじちょう 吉田上大路町 いせき 遺跡	26-54番地		400-4					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
白河街区跡	寺院跡・ 邸宅跡	弥生時代		弥生土器		鎌倉時代の墓域を 確認した。		
吉田上大路町 遺跡	集落跡	平安時代		須恵器、灰釉陶器、緑 釉陶器				
		鎌倉時代 ～室町時代	柱列、掘立柱建物、 柱穴、溝、土坑、 墓	土師器、白色土器、須 恵器、山茶碗、瓦器、 施釉陶器、焼締陶器、 輸入陶磁器、瓦類、石 製品、金属製品				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2016-12
白河街区跡・吉田上大路町遺跡

発行日 2017年3月31日

編集行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961